

令和元年度（2019年度）

愛 知 県

「若者・外国人未来応援事業」

成 果 報 告 書

令和2年3月

愛知県教育委員会生涯学習課



目 次

1	本県における事業の必要性と事業の趣旨・目的	1
2	事業の全体概要	2
3	令和元年度「若者・外国人未来塾」の実施状況	
	(1)「若者・外国人未来塾」委託先及び協力課の概要	8
	(2)「若者・外国人未来塾」の実際	
	■ 名古屋地域	10
	■ 豊田地域	17
	■ 豊橋地域	25
	■ 春日井地域	29
	■ 知多地域	33

<項目>

- ・ 参加者の状況
- ・ 参加者の感想・メッセージ
- ・ 支援スタッフ
- ・ 参加者への広報方法
- ・ 支援スタッフから見た成果と課題
- ・ 運営者から見た成果と課題
- 参加者ピックアップコラム
- 市協力課から見た本事業の成果と課題

※地域により項目立ての異なるところあり

4	令和元年度「若者未来応援協議会」の実施状況	
	(1) 開催日と主な協議内容等について	36
	(2) 連携状況について（アンケート調査結果より）	37
	(3) 合同協議会委員から見た事業の成果と課題（アンケート調査結果より）	40
5	学習支援に参加された皆さんの声	42
6	事業の成果と課題	
	(1) 成果	47
	(2) 課題	49
7	3年間の成果と課題について（学識経験者）	52

1 本県における事業の必要性と事業の趣旨・目的

近年、所得格差は拡大し「子供の貧困」が社会的に注目され、子供の7人に1人が貧困家庭に生活するといわれている。特に、社会的困難を抱えた子供にとって学校を離れた後の継続的な支援がないことが課題とされている。

本県においても、義務教育段階の支援については、放課後子ども教室や地域未来塾及び不登校の支援をアウトリーチにより実施している家庭教育コーディネーター設置事業など（いずれも生涯学習課が担当課）があるが、義務教育終了後の社会的困難を抱える若者に対する支援体制は十分ではない。

また、本県には外国人居住者が多く、日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数は9,100人と全国最多であり、2番目に多い神奈川県（4,453人）の約2倍と突出している。

本県の困難を抱える若者の状況については以下のとおりである。

【県の状況】

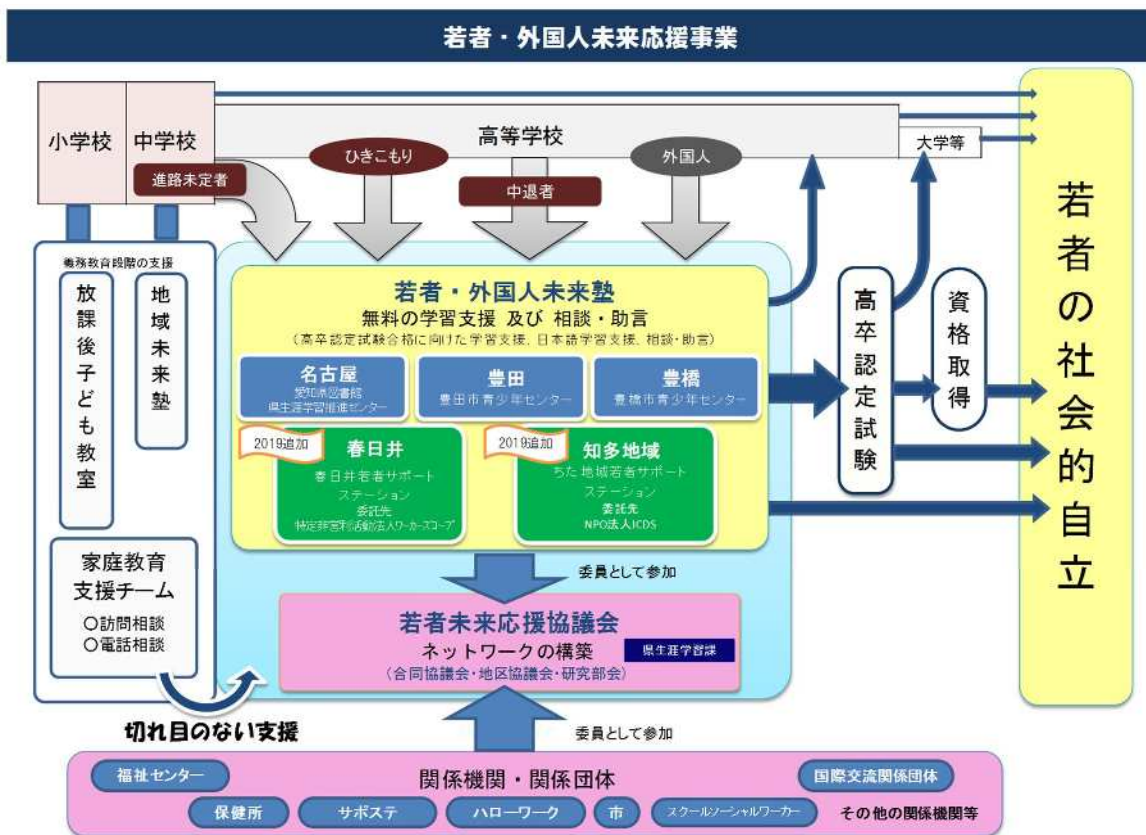
- ・ 中学校不登校生徒数：8,227人 全国ワースト4位（2018年度）
- ・ 中学校卒業後進路未定者数：621人 全国ワースト2位（2019年度）
- ・ 高等学校等中退者数：2,307人 全国ワースト5位（2018年度）
- ・ 日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数：9,100人 全国1位（2018年5月現在）

こうした状況を鑑み、本県は、文部科学省の「地域の教育資源を活用した教育格差解消プラン～親子の学び・育ち応援プラン～」（後に「学びを通じたステップアップ支援促進事業」となる。）の委託を受け、2017（平成29）年度から「若者・外国人未来応援事業」の実施を開始した。その後、継続して委託を受け、本年度は事業開始から3年目となる。

本事業においては、中学校卒業後の進路未定者や高等学校中退者等の社会的自立を支援するため、地域若者サポートステーション（以下「サポステ」という）をはじめとした、教育、福祉、保健、労働、多文化共生等の関係機関等と連携し、学校教育から切れ目のない支援を行うこととした。また、社会と出会う学びづくりをとおして、社会的困難を抱えた若者の自己肯定感を高め、自立を促すことにより将来の貧困を防ぐとともに、若者の多様な居場所づくりに地域全体で取り組むことにより、困難を抱えた若者を地域で支援する体制の構築を目指すものである。

2 事業の全体概要

【令和元（2019）年度 事業概要図】



(1) 「若者・外国人未来塾」・「若者未来応援協議会」

愛知県では、事業名を「若者・外国人未来応援事業」とし、県教育委員会生涯学習課が主体となり、5つの委託団体及び関係機関・団体等と協働して、事業を実施する。

本事業は、「若者・外国人未来塾」と「若者未来応援協議会」の二つを柱とする。

【業務実施スケジュール】

月別実施表	4月～6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	国と県との契約 県と委託先との契約		高認試験			高認試験				
学習支援										
日本語学習（名古屋）										
PC講座（名古屋）										
協議会	合同協議会		第1回							第2回
	地区協議会		第1回					第2回		
	研究部会						第1回		第2回	

ア 若者・外国人未来塾

「若者・外国人未来塾」とは、県内5地域（名古屋、豊田、豊橋、春日井、知多地域（半田市））において、無料の学習支援及び相談・助言事業を行う支援の場である。中学卒業後の進路未定者、高校中退者、ひきこもり状態の人及び外国人等、社会的困難を抱える若者を対象として、主に高卒認定試験合格に向けた支援を行う。名古屋地域の会場においては、日本語習得の不十分な外国人のための日本語学習支援や、PCを用いた学習支援も行う。

また、学習面で問題を抱える若者は、他の様々な社会的困難も同時に抱えていることがあるため、対象者の要望に応じ、本事業で連携する福祉、保健、労働、多文化共生等の関係機関・団体の適切な窓口を紹介し、支援が受けられるように誘導する。

【令和元（2019）年度「若者・外国人未来塾」の実施概要】

●高卒認定試験合格等に向けた学習支援、相談・助言

地域	委託団体	会場	実施日
名古屋	NPO法人あいち・子どもNPOセンター	愛知県図書館	水曜日 17:30～19:30 土曜日 13:30～17:30 金曜日 14:00～17:00 7月10日（水）から実施
豊田	豊田市文化振興財団	豊田市青少年センター	水・金曜日 18:00～21:00 ☆土曜日 13:30～16:30 7月5日（金）から実施
豊橋	NPO法人いまから	豊橋市青少年センター	火・金曜日 19:30～21:30 7月5日（金）から実施
★春日井	NPO法人ワーカーズコープ	春日井若者サポートステーション	月・木曜日 18:00～20:00 7月8日（月）から実施
★知多地域	NPO法人ICDS	ちた地域若者サポートステーション	水曜日 15:00～17:00 土曜日 13:00～17:00 （但し、第4水曜日は休館のため実施しない。） 7月13日（土）から実施

★本年度追加地域 ☆委託団体の独自事業

●日本語学習支援

（対象：日本語支援が必要な外国人等。内容：読み書きを中心に個別指導を基本とする。）

地域	委託団体	会場	実施日
名古屋	NPO法人あいち・子どもNPOセンター	愛知県生涯学習推進センター	火曜日 15:00～17:00 7月9日（火）から実施

●基礎的なパソコン講座（対象：不問 内容：個別指導を基本とする。）

地域	委託団体	会場	実施日
名古屋	NPO法人あいち・子どもNPOセンター	愛知県生涯学習推進センター	8月20日・27日、2月18日・25日（年4回）

イ 若者未来応援協議会

学識経験者の助言のもと、就労支援機関をはじめ、福祉、保健、労働、その他関係機関・団体等と、効果的な連携・協働の在り方等について協議するため、県教育委員会生涯学習課が設置。対象者が真に必要とする支援先を相互に案内できるネットワークの構築を目指す。

- ・関係機関等に対する事業周知、及び、相互の連携・協力体制の構築を図るため、県レベルの委員で構成される**合同協議会**を設置。（年2回開催）
- ・各地域の実情に応じた支援ができるよう、各地域における関係機関・団体等の委員からなる**地区協議会**を設置。（各地域年2回開催）
- ・事業の評価及びモデル事業としての普及・啓発方策について協議するため、**研究部会**を設置。（年2回開催）

【令和元年度 委員の構成】

機関・団体等	学識者 3名(地区協議会は各1)	委託先	県生涯学習課	県高校教育課	県障害福祉課	県地域福祉課	県多文化共生室	県就業促進課	県福祉センター	国労働局	市・若者協議会担当	市生涯学習課	市学校教育課	市福祉部/保健部	市多文化共生課	市産業部	ハローワーク/サステ	保健所	国際交流協会	高校	青少年センター	NPO・社会福祉協議会
合同協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○											
研究部会	○	○	○								○						○					
名古屋地区協議会	○	○	○					○	○		○						○		○			○
豊田地区協議会	○	○	○						○		○		○	○		○	○			○	○	
豊橋地区協議会	○	○	○								○	○	○	○	○		○	○				○
春日井地区協議会	○	○	○								○		○	○			○	○				○
知多地区協議会	○	○	○										○	○			○					○

※令和元年度 若者未来応援協議会 委員名簿についてはP. 6、7に掲載。

(2) 3か年の事業実績

ア 学習支援参加者（相談のみも含む。）

地域	実人数			延人数		
	R1	H30	H29	R1	H30	H29
名古屋	24 (0)	20 (1)	25 (8)	222	180	61
豊田	30 (20)	14 (5)	9 (1)	371	102	154
豊橋	23 (13)	18 (7)	11 (0)	401	191	190
春日井	5 (0)	—	—	135	—	—
知多	3 (0)	—	—	47	—	—
合計	85 (33)	52 (13)	45 (9)	1,176	473	405

※（ ）内は外国人数で内数。なお、H29、H30は年間実績である。

※R1年度 外国人国籍：豊田 20（ブラジル12、ボリビア4、中国2、ペルー1、フィリピン1）
豊橋 13（ペルー6、ブラジル6、ボリビア1）

イ 日本語学習支援参加者

年度	実人数			延人数		
	R1	H30	H29	R1	H30	H29
名古屋	20	5	12	118	26	49

※R1年 参加者国籍：フィリピン7、中国4、香港1、ベトナム1、ネパール1、日本2（うち台湾出身1）、カンガ1、韓国1、パキスタン1、不明1

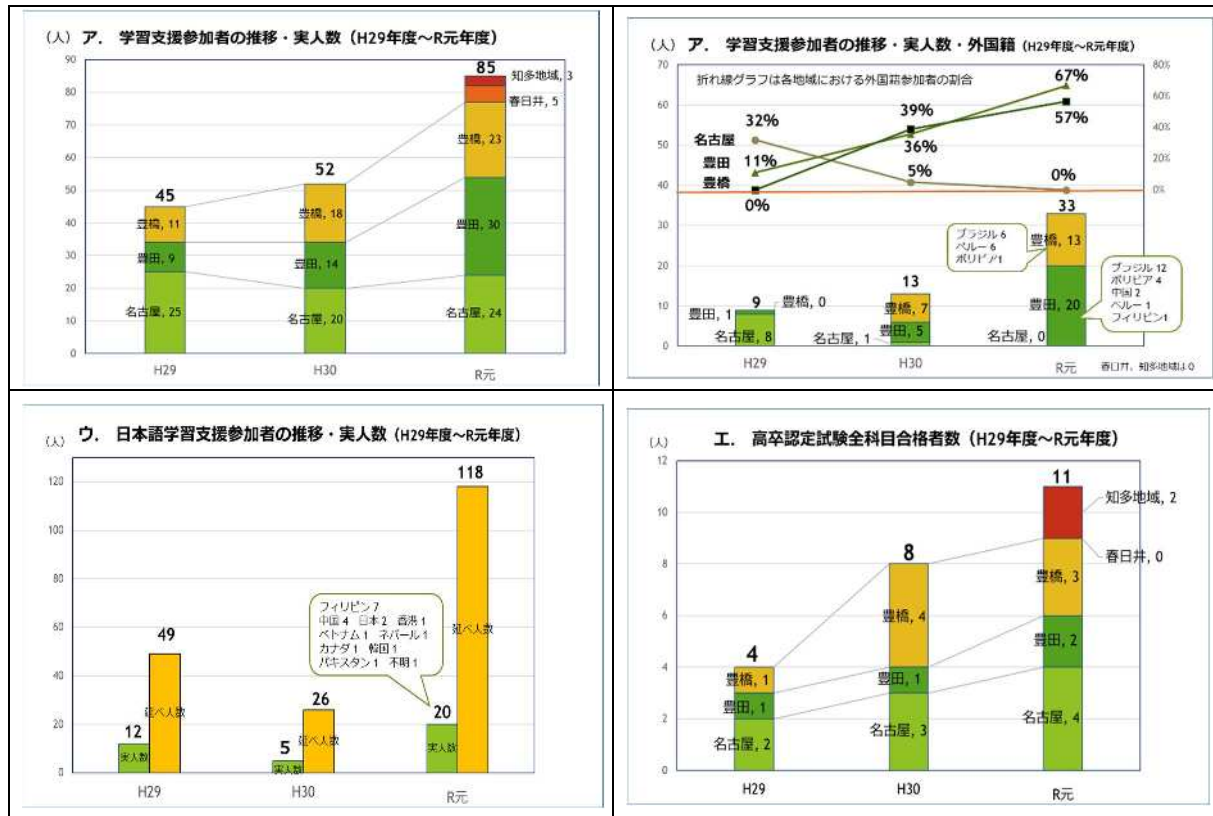
ウ パソコン講座 全4回（8月20日・8月27日、2月18日・2月25日）

年度	実人数			延人数		
	R1	H30	H29	R1	H30	H29
名古屋	2	1	3	4	1	4

エ 高卒認定試験受験者数等（令和2年3月・判明分）

地域	実受験者数			延受験者数			全科目合格者			一部科目合格者		
	R1	H30	H29	R1	H30	H29	R1	H30	H29	R1	H30	H29
名古屋	8	10	4	8	10	4	4	3	2	3	4	2
豊田	5	3	2	6	4	3	2	1	1	1	1	2
豊橋	7	6	2	7	7	3	3	4	1	3	2	2
春日井	2	—	—	2	—	—	0	—	—	0	—	—
知多地域	2	—	—	2	—	—	2	—	—	0	—	—
合計	24	19	8	25	21	10	11	8	4	7	7	6
3か年合計	51			56			23			20		

【3か年の推移(グラフ)】



【令和元年度 若者未来応援協議会 委員名簿】

● 合同協議会		
大村 恵	学識者	愛知教育大学・副学長
川北 稔	学識者	愛知教育大学・准教授
野尻 紀恵	学識者	日本福祉大学・教授
犬飼 透	委託先	NPO法人あいち・子どもNPOセンター・常任理事
水野 貴宏	委託先	豊田市青少年センター・所長/公益財団法人豊田市文化振興財団・主幹
仲田 尚弘	委託先	NPO法人いまから・理事長
細川 政史	委託先	NPO法人ワーカーズコープ 東海事業本部 事務局次長
山田 学	委託先	NPO法人ICDS/ちた地域若者サポートステーション・センター長
佐野 均	市・関係課	豊田市子ども部次世代育成課・課長
武田 有祐	市・関係課	豊橋市こども未来部こども若者総合相談支援センター・センター長
岩城 一成	国・就労	愛知労働局職業安定部訓練室・室長補佐
岡本 和恵	国・就労	愛知労働局職業安定部職業安定課・業務補佐
伊藤 裕幸	県・保健	愛知県保健医療局健康医務部医務課こころの健康推進室・室長補佐
羽生 康一	県・福祉	愛知県福祉局福祉部地域福祉課・課長補佐
小林 宣喜	県・青少年	愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課・課長補佐
各務 元浩	県・多文化	愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課 多文化共生推進室・室長補佐
高見 修	県・就労	愛知県労働局就業促進課・課長補佐
井上 猛	県・教育	愛知県教育委員会高等学校教育課・課長補佐
大道 伊津栄	県・生涯	愛知県教育委員会生涯学習課・課長
高木 浩正	県・生涯	愛知県教育委員会生涯学習課・家庭教育コーディネーター
● 研究部会		
大村 恵	学識者	愛知教育大学・副学長
川北 稔	学識者	愛知教育大学・准教授
野尻 紀恵	学識者	日本福祉大学・教授
犬飼 透	委託先	NPO法人あいち・子どもNPOセンター・常任理事
水野 貴宏	委託先	豊田市青少年センター・所長/公益財団法人豊田市文化振興財団・主幹
仲田 尚弘	委託先	NPO法人いまから・理事
細川 政史	委託先	NPO法人ワーカーズコープ 東海事業本部 事務局次長
山田 学	委託先	NPO法人ICDS/ちた地域若者サポートステーション・センター長
佐野 均	市・関係課	豊田市子ども部次世代育成課・課長
武田 有祐	市・関係課	豊橋市こども未来部こども若者総合相談支援センター・センター長
大道 伊津栄	県・生涯	愛知県教育委員会生涯学習課・課長
● 名古屋地区協議会		
大村 恵	学識者	愛知教育大学・副学長/NPO法人あいち・子どもNPOセンター・代表理事
犬飼 透	委託先	NPO法人あいち・子どもNPOセンター・常任理事
竹内 洋江	委託先	NPO法人あいち・子どもNPOセンター・専務理事
石川 美雪	県・保健・福祉	愛知県精神保健福祉センター保健福祉課・主事
小山 豊三郎	県・国際	愛知県国際交流協会交流共生課・課長
鈴木 健悟	県・就労	愛知県労働局就業促進課・主任
廣田 みどり	市・青少年	名古屋市子ども青少年局子ども未来企画部青少年家庭課・課長
森 隆之	ハローワーク	愛知わかものハローワーク・主幹
鶉飼 数正	NPO・サポステ	なごや若者サポートステーション・センター長
村上 忠明	NPO	NPO法人こどもたちのアジア連合・代表理事
● 豊田地区協議会		
川北 稔	学識者	愛知教育大学・准教授
鈴木 光行	委託先	豊田市青少年センター・副所長/公益財団法人豊田市文化振興財団・副主幹
小野田さゆり	社会福祉法人	社会福祉法人豊田市社会福祉協議会・主査
山田 知宏	社会福祉法人	社会福祉法人豊田市福祉事業団・主任就業支援担当
中村 秀郷	国・法務局	名古屋保護観察所・保護観察官
江尻 友美	県・学校	西三北地区高等学校生徒指導研究会・教諭
兼子 吉彦	市・福祉	豊田市民生委員児童委員協議会・児童福祉部会部会長
小畑 香織	NPO	特定非営利活動法人育て上げネット中部虹の会・相談員
岩崎 景子	NPO	特定非営利活動法人育て上げネット中部虹の会・支援員
成瀬 真弓	市・青少年	豊田市子ども部子ども家庭課・指導主事
原田 一弥	市・教育	豊田市教育委員会学校教育課・指導主事
加藤 史也	市・福祉	豊田市福祉部福祉総合相談課・主事
下川原沙紀	市・福祉	豊田市福祉部生活福祉課・主事
加藤 凌次	市・福祉	豊田市福祉部生活福祉課・主事

岩瀬 望	市・福祉	豊田市福祉部障がい福祉課・主査
鈴木 みな美	市・保健	豊田市保健部総務課・主事
川原 満代	市・保健	豊田市保健部地域保健課・主事
鈴木 智映子	市・産業	豊田市産業部ものづくり産業振興課・就労支援室室長
山下 直之	ハローワーク	豊田公共職業安定所 職業相談部門・統括職業指導官
中田 亮	ハローワーク	豊田公共職業安定所 職業相談部門・上席職業指導官
● 豊橋地区協議会		
野尻 紀恵	学識者	日本福祉大学・教授
仲田 尚弘	委託先	特定非営利活動法人いまから・理事
武田 有祐	市・青少年	豊橋市こども未来部こども若者総合相談支援センター・センター長
木下 智弘	市・教育	豊橋市教育委員会教育部学校教育課・課長
先田 浩一	国・法務局	名古屋保護観察所豊橋駐在官事務所・保護観察官
吉玉 康弘	県・警察	愛知県豊橋警察署・安全生活課長
石倉 健治	国・青少年	豊橋保護区保護司会・会長
伊東 林平	市・青少年	豊橋市少年愛護センター・所長
坂柳 伸浩	市・青少年	豊橋市少年愛護センター補導委員会・委員長
高畑 尚弘	県・学校	愛知県立高等学校校長会（県立時習館高等学校長）
高倉 宣夫	私学・学校	愛知県私学協会三河支部（豊橋中央高等学校長）
丸崎 恵子	市・学校	豊橋市立豊橋高等学校・校長
武田 靖志	県・福祉	愛知県東三河福祉相談センター・児童育成課長
福岡 吉彦	社会福祉法人	豊橋市社会福祉協議会・事務局長
掛布 喜代子	市・児童	豊橋市民生委員・児童委員協議会
安井 洋二	市・医師会	豊橋市医師会・会長
中野 弘克	市・児童	豊橋市こども発達センター センター長
伊藤 浩靖	商工会議所	豊橋商工会議所ビジネスサポートセンター人財サポートチーム・リーダー
久保 和代	サポステ	とよはし若者サポートステーション・統括コーディネーター
小林 稔	市・青少年	青少年育成市民会議
渡邊 潤平	NPO	NPO法人外国人就労支援センター・代表
松浦 良昭	NPO	NPO法人三河ダルク・代表
加藤 満博	青少年	おやじのいる会
中村 友紀子	社会福祉法人	発達・就労相談支援センターFLAT・センター長
生駒 雄二	市・福祉	豊橋市福祉部障害福祉課・課長
鈴木 康仁	市・福祉	豊橋市福祉部生活福祉課・課長
坂神 浩	市・産業	豊橋市産業部商工業振興課・課長
榎本 陽子	市・青少年	豊橋市こども未来部こども未来政策課・主査
小清水 仁美	市・多文化	豊橋市市民協創部多文化共生・国際課・課長
牧野 忍	市・健康	豊橋市健康部健康増進課・課長
鳥井 正行	ハローワーク	豊橋公共職業安定所・所長
金田 文子	一般社団法人	一般社団法人東三河セーフティネット・代表理事
● 春日井地区協議会		
川北 稔	学識者	愛知教育大学・准教授
小楠 修平	委託先	NPO法人ワーカーズコープ東海事業本部・名古屋事業所長
桑村 誠	NPO・サポステ	春日井若者サポートステーション・統括コーディネーター
鷹見 恭平	市・青少年	春日井市青少年子ども部子ども政策課・課長補佐
若杉 雅志	市・福祉	春日井市健康福祉部生活支援課・課長補佐
坂田 安男	市・教育	春日井市教育委員会学校教育課・指導主事
荒川 祐治	ハローワーク	春日井公共職業安定所・次長
岸 歩	県・保健	愛知県春日井保健所健康支援課こころの健康推進グループ・主任
渡邊 壽	NPO	NPO法人一服亭かちがわ・理事長
● 知多地域地区協議会		
野尻 紀恵	学識者	日本福祉大学・教授
山田 学	委託先	NPO法人ICDS／ちた若者サポートステーション・センター長
三浦 涼平	市・保健	半田市健康子ども部子育て支援課・主事
古川 陽一	市・福祉	半田市福祉部生活援護課・主事
神野 真輔	市・教育	半田市教育委員会学校教育課・指導主事
原 日菜子	市・教育	半田市教育委員会学校教育課・スクールソーシャルワーカー
前山 憲一	社会福祉法人	半田市社会福祉協議会・事務局次長
下村 裕子	NPO	NPO法人りんりん・理事
部田 かね代	NPO	NPO法人ひだまり・理事長

なお、今年度、豊田地区協議会は「豊田市若者支援地域協議会」の一部に、豊橋地区協議会は「豊橋市子ども・若者支援地域協議会」の一部に位置付けて開催した。

3 令和元年度「若者・外国人未来塾」の実施状況

(1) 「若者・外国人未来塾」委託先及び市の協力課の概要

委託先	委託団体の特徴	実施会場とその特徴
NPO法人 あいち・子どもNPO センター(名古屋地域)	<ul style="list-style-type: none"> ●名古屋市内のNPO法人 ●県内の子育ち・子育てにかかわるNPO、サークル、個人をつなぐ中間支援団体 ●タイムリーなテーマを取り上げた学習会を企画 ●定期的にニュースレターを発行 	<p>【愛知県図書館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地下鉄丸の内駅から徒歩5分 ●名古屋城城郭内の閑静な場所にある施設。 ●5階の会議室を借り、学習支援を実施。 <p>【愛知県生涯学習推進センター】 (日本語学習・PC講座)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●愛知県東大手庁舎2階 ●地下鉄市役所駅、名鉄東大手駅から徒歩5分 ●県生涯学習課が所管している施設
豊田市文化振興財団 (豊田地域)	<ul style="list-style-type: none"> ●文化及び芸術の振興、青少年の健全育成、生涯学習活動の推進を行う公益財団 ●本事業会場の豊田市青少年センターを指定管理 ●豊田市生涯学習センター交流館を管理 ●青少年の居場所づくり事業 	<p>【豊田市青少年センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市の中心部にあり、豊田市駅から徒歩6分 ●小ホール・多目的ホールや科学体験館を有する豊田産業文化センターの4階 ●若者サポートステーションが午前9時から午後6時まで使用する部屋を、午後6時から午後9時まで使用 ●建物内に、高校生が自習に利用するスペースあり
NPO法人いまから (豊橋地域)	<ul style="list-style-type: none"> ●豊橋市内のNPO法人 ●とよはし若者サポートステーションの運営者 ●ひきこもり、ニート、不登校者の自立支援事業 ●知的障害、発達障害、精神障害を抱える人のためのグループホームの運営 ●フードバンク事業の実施 	<p>【豊橋市青少年センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市の中心部からやや離れた住宅地の中にある施設 ●青少年の健全育成活動の拠点として研修、スポーツ、レクリエーション等を実施 ●サポステ(いまからが運営)も所在 ●青少年センター研修棟の一室を借り、学習支援を実施
NPO法人ワーカーズ グループ(春日井地域)	<ul style="list-style-type: none"> ●介護、保健福祉サービス業、生活困窮者自立支援等多岐にわたり福祉事業を展開するNPO法人。 ●春日井若者サポートステーションの運営者 ●一宮市においてもサポステを運営 	<p>【春日井若者サポートステーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JR春日井駅から徒歩1分 ●駅前第3共同ビルの4階 ●若者サポートステーションの一画を使用し午後6時から午後8時まで学習会を実施している。
NPO法人ICDS (知多地域)	<ul style="list-style-type: none"> ●名古屋市にあるNPO法人 ●ちた地域若者サポートステーションの運営者 ●名古屋、岐阜においてもサポステを運営 ●青少年に対する就労支援等、地域での福利厚生関連事業を展開。 	<p>【ちた地域若者サポートステーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●名鉄知多半田駅から徒歩1分、JR半田駅から徒歩8分 ●知多半田駅から会場のクラシティの3階にはデッキにて直結されている。 ●若者サポートステーションと同階の市民活動ルームを使用。

市の協力課	主な業務内容等
豊田市子ども部次世代育成課	<p>小学生から39歳の若者を対象に、社会参加の促進や自立支援、情報発信等の事業を展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ●主な所管施設 <ul style="list-style-type: none"> ・豊田市青少年センター ・豊田市若者サポートステーション ・とよた子どもの権利相談室 ●主な事業 <ul style="list-style-type: none"> ・豊田市若者支援地域協議会の運営 ⇒市役所関係課及び関係団体とのネットワーク構築 ・とよた若者応援ネット「プラス」(メルマガ・LINE@) ⇒ボランティアやイベントなどの定期的な情報発信
豊橋市こども未来部こども若者総合相談支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ●妊産婦と0歳～39歳までの子ども・若者に関する相談、支援を行う拠点として平成29年10月に開設 ●主な業務 <ul style="list-style-type: none"> ◇児童相談に関すること。 ◇児童虐待に関すること。 ◇子ども・若者自立支援に関すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・要保護児童対策ネットワーク協議会の運営 ・子ども・若者支援地域協議会の運営 ・養育支援訪問事業 ・定時制・通信制高校合同説明会の開催など

(2) 「若者・外国人未来塾」の実際

名古屋地域

● 学習支援

ア 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズを持っているのか）

○ 参加者 24人（男14人、女10人） 居住地：市内8人、市外14人、不明2人

○ 年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
11人	5人	6人	0人	0人	1人	1人

○ 学歴

中卒	高卒	大卒	高校在学中
14人	1人	1人	8人

中卒のうち、高校中退は5人。

○ 参加目的

- ・高校卒業認定試験の支援希望がほとんど。（19人）
- ・大学進学をサポート：2人
- ・高校進学サポート：1人
- ・就職サポート：1人
- ・高校定期試験サポート：1人

○ 学習支援の状況

- ・今年度は社会系の教科の支援希望が多く、理数系の希望が少なかった。就職や大学進学に向けても支援してきた。
- ・ほぼマンツーマンで支援をすることができた。
- ・今年は受講生の方たちの状況を共有できるように毎回の支援日誌を有効に活用してきた。定期的なスタッフ会議の内容を記録するようにして共有できる体制も整えてきた。
- ・支援の内容が確実に充実してきている。

○ 高校卒業認定試験の結果

- ・8月受験3人（全教科合格2人 一部合格1人）
- ・11月受験5人（全教科合格2人 一部合格2人）

○ 基礎的パソコン講座

開催日：8月20日、8月27日、2月18日、2月25日

会場：愛知県生涯学習推進センター

参加者：2人（延べ4人）

イ 支援スタッフ

人数	13人
スタッフの属性	元教員3人、大学生9人、大学教員1人
どのようにしてスタッフを集めたか。	元教員の同僚、事務所に連絡があった方に依頼 大学生のつながり

今後も踏まえ、スタッフ確保のための良い方策、アイデアはあるか。	現スタッフのつながりを特に大事にして後継者をつなげていくことが有効。処遇がしっかりしていることも重要
---------------------------------	--

・学習支援員として社会、英語、理数各1名を配置。大学生は理科系と文系バランスよく体制がほぼ整えられた。各回のスタッフは支援員2～3名と大学生2～3名で実施。

ウ 広報活動

広報内容	配布先
チラシの配布	①名古屋市内区役所・支所 (19 か所) ②名古屋市内生涯学習センター (16 か所) ③名古屋市内警察署少年係 (16 か所) ④愛知県内市町村行政 (42 か所) ⑤名古屋市内図書館 (16 か所) ⑥愛知県内保健センター (20 か所) ⑦定時制高校 (6 か所) ⑧就労支援施設 (1 か所) ⑨報道関係 (15 か所)

エ 参加者の声 (学習支援を受けられた方より)

年齢等	感想・メッセージ
10代・男性	僕は英語を教えてもらい、単語や文法がたくさんわかるようになりました。中学の頃はわからなかったものが何故か簡単にわかりました。大学のテストも教えてくれるようなのでありがたい気持ちでいっぱいです。
20代・女性	私は中学・高校を一度も行ったことがなく、定時制高校に入学するために中学の勉強をしています。ボランティアの人がとても分かりやすく教えてくれて勉強が楽しいです。私はこの場所に来て良かったです。
60代・男性	私は定年後の夢として、大学で学びたいと在職中から考えていました。私は喘息持ちのアレルギー体質を持っていて長い間苦しんできたので、医療関係について学べたらと思っています。 そのため、まず高卒認定試験から挑戦しました。在職中から暇を見て勉強していましたので、何とかなるだろうと甘く考えていました。ところが、実際に受験して理科系の科目が合格できず、最初の壁にぶつかりました。そんな時に、雇用保険の失業給付の関係でお世話になっていたハローワークにおいて、NPO法人あいちの学習支援を紹介していただき、NPOの先生たちのお陰で高卒認定試験に合格することが出来ました。私には、やっとスタート台に立てたのかなとの思いです。次は、大学入学センター試験の攻略です。まだ、夢の達成には遠い道のりですが、健康と時間の許す限り、頑張るつもりです。まだまだ、NPOの先生たちにはお世話になりますが、よろしくお願いします。
20代・男性	僕はここに通い始めて3ヶ月です。先生とマンツーマン指導で教えて頂き今月2教科の合格通知をもらいました。これもわかりやすくていねいに教えてもらったからだと感謝しています。それから強制ではない事といつでも通えるというところが良いと思います。

オ 支援スタッフから見た成果と課題

<p style="text-align: center;">成 果</p>	<p>【学習支援体制について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポーター全員で情報を共有しながら支援に当たることができるようになった。 ・定着率が上がったことや参加者の延べ数が増加したことは大きな成果だと思う。 ・本年度は学生に関しては、水曜にも土曜にも入っているサポーターが多くなった。前回の学習支援の雰囲気等が引き継がれやすくなったこと、曜日に縛られない柔軟な学習計画ができるようになったことなどが成果としてあげられる。 ・事業としては3年目、県図書館に移って2年目ということもあり、スタッフの間での経験の蓄積、共有が少しずつできるようになってきた。新規の参加者の方にも落ち着いた対応が毎回できるようになってきた。 ・認定試験の先を目指して継続して通う参加者がいるということは、この場はしっかりサポートしてくれる、という信頼関係がきちんと形成されているからこそではないか。 <p>【参加者の人数について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比べ様々な場所からの紹介で訪れる人が増えたように思う。 ・この学習支援を必要としている人に情報を届けることができる体制が整ってきていることを感じた。 ・試験までは、一定の人数が安定し毎回参加していた。 <p>【参加者について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高卒認定試験の合格だけでなく、その先に大学や専門学校を目指して勉強したり、詰め込んでしまった基礎を改めて解き直す勉強をしたりする参加者が増えた。
<p style="text-align: center;">課 題</p>	<p>【多様な参加者への対応について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度はより様々な事情を抱える参加者の方が増えた。それぞれの方の事情に適切に配慮し、対応できるための知識が不足していると感じた。 ・雑談や学習の相談から、他の専門機関への連携が必要と感じる場面があったときの対応に苦慮している。障害や家族関係等、どこまで関わるべきか迷う。 ・配慮を要する方への対応については、参加者の性別や特性によってはできるだけ静かな空間を用意する、同性のサポーターが対応した方が良いなど、丁寧な配慮の必要を感じる場面もあり、全体のコーディネートに工夫の余地あり。 <p>【学習支援の方法について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者一人一人の精神的な面にも配慮して学習計画を立てたい。最近は時間の枠の途中から参加する人が多いためか休憩時間を取らず一気に進むことも多くなってきた。が、サポーターの使命感より参加者がしんどくないか、ついてこられているかを考えながら柔軟にサポートしていきたい。(ただし試験に間に合うようにということも考えなければいけない。) <p>【学習支援体制について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数の波が激しく、調整が難しい。 ・それぞれの参加者の学習状況や対応内容の共有。事業開始前に話し合う機会を設けたり、曜日をまたいだシフト調整をしたりすることをしているがまだ不十分。

【感想】

- 昨年度から継続して参加して下さる方も多く、この場所が必要とされていることを改めて実感した。昨年度から取り組んでいた方の合格の報告はとても嬉しいものだった。一方で、参加が途絶えてしまった方も何人かいた。それぞれの事情もあるので仕方がない部分もあるが、参加者それぞれの目標の達成まで支援をしたかったとも感じた。
- 参加者が増えることは喜ばしいことであるが、同時に多様な参加者への配慮が必要とされるようになる。本年度はそれが非常に顕著であったように感じる。だが、メンタルに問題を抱える参加者への対応についての研修が開かれるなど、サポーターそれぞれが自分たちに何が求められそれにどう対応すべきか考えて参加者と向き合うことができたように感じる。

- 昨年と比べて、さらに幅広い年齢層の様々な目標をもつ参加者が集まるようになった。それぞれの方の目標や特性にあわせて今後も学習支援に取り組んでいきたい。
- 回数を重ねるなかで、新規の参加者からは何を聞いておくべきか、認定試験制度のポイントは何か、といった要点が押さえられるようになり、以前より丁寧な対応できるようになったと感じる。参加者と、学習内容の質問だけでなく学習方法の質問や、生活の相談、雑談などをする機会が増えたのも、そのような対応の積み重ねで成り立っていると感じる。一方で、この場では対応しきれないサインがみられる場面もあった。この学習支援の場ではどこまでを対応すれば良いか、明確にしていく必要があるとも感じる。

カ 運営者から見た成果と課題

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・3年目になり、認知度が大きくなったと感じる。HP、コンビニ、大高クリニック、公的機関等で見たり、紹介されたりして参加された方が増えていることにも現れている。 ・今年度は、水曜日と土曜日のシフトを別々にせず、全員で割り振ったので、情報の共有や引継ぎがスムーズにできて、サポートがよりの確になったのは大変良かった。 ・昨年度からの続けての参加者が6名おり、事業が3年間継続されている効果が出てきている。 <p>○18歳男性 2年続けて参加している。昨年は科学と人間生活・数学合格。今年は英語・倫理・政経合格。着実に成果が出ている。</p> <p>○27歳女性 2年続けて参加で、今年は就職活動を具体化して、公務員試験のための英語のサポートをしてきた。その結果、公務員試験に合格したということである。</p> <p>○37歳男性 2年続けて参加で、今年の11月の高卒認定試験で世界史・英語・科学と人間生活を合格することができた。来年度の高卒認定試験で高卒認定を取得して、大学進学を目指している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年目になり、スタッフの指導も経験が生かされ充実していて、受講生の方々も熱心に取り組んでいるのでお互いに良い流れになっている。 ・今年度の参加者は全体的に定着率が高く、継続的な援助ができ、見通しを持った対応ができています。 <p>○19歳の女性 ヤングジョブあいちからの紹介で7月から参加。高校3年で不登校になって退学した。昨年度の認定試験会場に入れなかったという状況であった。学習支援を熱心に受け、支援員の手厚いサポートで、8月の認定試験を合格することができた。自信を持てるようになり、大学に合格した。</p> <p>○26歳男性 大高クリニックからの紹介で9月から継続的に参加。11月の高卒認定試験では日本史・英語合格。今後、全教科の合格を目指す。</p> <p>○62歳男性 ハローワークの紹介。11月の高卒認定試験では物理合格。これで高卒認定を取得。大学進学のために、合格後も継続的に学習支援に参加している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援者向けに学習会実施（11/2） 講師として、地区協議会参加の愛知県精神保健福祉センター保健福祉課主事の石川さんに来ていただき、病気の特徴と対応の注意点などを学習した。今後もこのような学習をしていく必要がある。
-----------	--

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・開始が7月のため、受講生のニーズに答えきれていない。今年度、6名の継続受講生がいた。ぜひ、少しでも早く開始できると良い。対応策として、3月末まで、ボランティアで継続する予定。教材の貸し出しをする必要あり。 ・昨年、高卒認定試験を合格した20歳男性は今年になっても進路を決めかねているようである。高卒認定試験のサポートも大切な支援であるが、その先のサポートもできることから、やっていく必要がある。 ・今年度名古屋地区は外国をルーツにしている受講生は一人も受講しなかった。今後、受講することが考えられるので、情報交換や支援方法の学習などが必要である。
----	--

● 日本語学習支援

ア 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズを持っているのか）

- 参加者 20人（男8人、女12人） 居住地：市内13人、市外4人 不明1人
- 国籍 フィリピン7人、中国4人、香港1、日本2、ベトナム1人、ネパール1人
カナダ1人、韓国1人、パキスタン1、不明1人

○ 年齢	10代前半	10代後半	20～30代	40代以上	不明
	2人	6人	6人	5人	1人

○ 学歴	中卒	小・中学在学	不明
	9人	2人	9人

○ 職業

小・中学生	高校生 (定時制)	高校進学のため の日本語教室	大学生	会社員	主婦	アルバイト	無職	不明
2人	2人	2人	1人	3人	4人	1人	2人	3人

○ 状況

- ・夫が日本人。周りの日本人ともっとコミュニケーションを取りたい。会話のテキストとN2問題集などで学習。出産のため中断。
- ・夫が留学生。日本語のスキルを上げて働きたい。会話のテキストとN2問題集などで学習。家庭の事情で中断。
- ・定時制高校生。夏休みになったので、補習のため来室。数回で中断。
- ・来日したばかりで中学校、高校に入れず、進学・入学を目指した日本語支援の教室に通っている子3人と、支援教室を終了し小学校に在学している子の4人が、その教室を運営しているNPOの紹介で来室。市外居住ということもあり、夏休みだけで終了。
- ・学習者の親族。30代男性。全く日本語ができないが働きたいとのことで、ひらがなの学習から始めた。会話テキストで日常会話も少しずつできるようになってきている。
- ・妻が日本人。母国で働いていた分野で日本の大学院へ進学したい。JICEで勉強したが不十分とのこと。N2問題集で学習を始めたが、アルバイトの時間が変わり中断。
- ・ひとり親家庭で、区役所で紹介されて来室（2人）。どちらも仕事を持っており、会話は一応できるが、読み書きの力や、敬語などスキルアップのため来室。日本語能力を上げ、職業面でのステップアップを望んでいる。会話テキスト、N3問題集などで学習中。

- ・夫が日本人。J I C Eや他のボランティア教室で勉強中。N 1を受験して働きたい。会話テキストN 2問題集で学習中。

○ ニーズ・学ぶ目的（複数回答）

- ・中学入学（1人）
- ・高校入学（2人）
- ・大学院入学（1人）
- ・日本語能力検定試験受験（2人）
- ・日本語が上達し、日本人とスムーズに話したい（17人）
- ・働きたい（7人）

イ 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことのない人に対するメッセージ
<ul style="list-style-type: none"> ・日本語を使って買い物ができるようになった。 ・おもしろい。 ・よくわかる。 ・家から遠い。 	ずっと続けてほしい。	とてもいい教室です。

ウ 支援スタッフ

人数	6人
スタッフの属性	日本語教師資格を有する者 6人
どのようにしてスタッフを集めたか。	実施団体メンバーのネットワーク
今後も踏まえ、スタッフ確保のための良い方策、アイデアはあるか。	日本語教師有資格者については、どのボランティア教室も不足していると聞く。事業として確立し、きちんとした処遇が必要。

エ 日本語学習支援の内容について

方針：学習者一人一人のニーズに合った支援を行う。

内容：

- 場面会話のテキスト（「つなぐ日本語」）で、日常生活に必要な会話能力をつける。
- 日本語能力検定試験受験希望者には、受験レベルにあわせた問題集を使って不得意分野の学習をする。
- 漢字学習希望者には、N 4 からN 5 レベルの漢字学習から始めて段階的に進める。
- 在学者には、各自の教材を使った補習を行う。
- 高校進学など教科学習の支援が必要な人は「学習支援」事業へつなげる。

オ 支援スタッフから見た成果と課題

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語学習機会が一つ増えた。 ・経済的に厳しい方の学習の場となった。 ・学習者同士の交流の場となった。 ・学齢期の若者ではなく、日本人の配偶者や社会人でスキルアップを望む方への支援としては有効。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・当初想定していた日本の学校制度にのれない若い学習者（学校制度の関係で中学も高校もいけない、日本語能力が不十分で高校へ進学できないなど）への支援ができなかった。該当者が7、8月に来室したが、市外で遠いこと、週1回しかないことなどから継続できなかった。周知方法、実施回数、場所を見直す必要がある。どこにも行き場がない子は、確実に存在する。当事者任せにするのではなく、行政の積極的な取組が必要だと感じた。 ・学習者1人1人事情が違う。彼らに合わせた対応をするためにはマンツーマン指導にならざるを得ず、スタッフの確保が難しかった。

参加者ピックアップコラム

NPO法人あいち・子どもNPOセンター 日本語学習支援スタッフ

Aさん（31歳 フィリピン出身 女性）

5年前に来日し、1年半ほど市内のボランティア教室で日本語を学んだ。

現在、飲食店で調理の仕事をしてながら、3歳の子どもを育てている。

区役所でチラシをもらって来室した。日常会話はなんとかできるが、もっとスキルアップしたい。漢字が特に難しく、保育園からのお便りなどわからない時がある、とのことだった。

会話のテキストを使って日本語のブラッシュアップを図ること、漢字はN5レベルから、自宅でプリント学習をすることにした。

仕事と子育てをしつつ、休みの日に当教室へ通うということは、とても大変だと思うが、途切れることなく来室している。当教室は経済的な負担がないこと、たまたま家からの交通の便が良く仕事の休みと合ったことなどが、続けられる大きな要因だと思われる。

英語が堪能な方ではあるが、これから子どもが大きくなるにつれ、学校や他の保護者、地域の人たちとのコミュニケーションなどで日本語がますます必要になってくる。また、条件の良い仕事に移るには、日本語の上達が不可欠である。この教室が少しでもお役に立てたらと願っている。

豊田地域

ア 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズを持っているのか）

○ 参加者 30人（男14人、女16人） 居住地 市内22人、市外8人

○ 年齢 ※参加時の年齢、（ ）は外国人数

10代前半	10代後半	20代	30代	その他
9人（8）	15人（10）	3人（1）	2人	1人（1）

○ 学歴 ※（ ）は外国人数

中学在籍	中卒	高1中退	高2中退	高校在籍	高卒	その他
9人（8）	5人（4）	4人	2人（1）	7人（5）	2人（1）	1人（1）

○ 状況

- ・ 高校を卒業し就労。大学進学を目指しお金をためている。
- ・ 日本語の理解が苦手で、中学校の勉強に苦労している。
- ・ 2児の母親。出産・育児が重なり通信制高校を卒業できずにいる。高卒認定を選択した方が卒業よりも負担が少ないと学校からのアドバイスを受けて参加。
- ・ 高校の勉強についていけない。卒業をするために勉強したい。
- ・ 中学2年までは通学できたが3年は休みがちになりそのまま卒業。通信制高校に進学したが2年途中で中退。
- ・ 通信制高校を中退。平成30年度高卒認定試験を受験し高卒認定取得。ただし、その後の進路が決まらないため時々学習に訪れる。就労意欲が低い。定期的に精神科のカウンセリングを受けている。
- ・ 中学卒業時に進路について学校と話し合ったが、結果が出ないまま卒業してしまい、ひきこもってしまった。若者サポートステーションからの紹介で参加。
- ・ 高校1年時に不登校になり留年。翌年1年課程を修了し2年になったが再び不登校。
- ・ 家族の病死がショックで中学2年の途中で一時期不登校になった。現在復学したが勉強の遅れを取り戻すために参加している。
- ・ 公立高校を中退し私立高校に転学したが雰囲気合わなかったため中退。発達障害があり障がい者就業・生活支援センターの支援を受けて就労先を探している。今年度高卒認定試験を受験し科目合格した。最近になり青少年センターで高卒認定受験支援の取組みがあることを知り通うことになった。
- ・ 高校を1年時に中退。現在福祉施設で働いている。就労先の上司の勧めで学習支援を知り参加。
- ・ 8月の試験で複数科目合格した。11月の試験で残る科目を合格したい。

○ ニーズ・学ぶ目的

- ・ 将来、大学に進学したいので学力向上を目指したい。
- ・ 高校進学のために勉強したい。

- ・高卒の資格を取得し就労条件を良くしたい。
- ・日頃の学校の授業で理解が追いつかない部分を補い、高校を卒業し進学したい。
- ・学習の遅れを克服し、普通科高校に進学したい（外国人枠ではなく）。
- ・高卒認定を社会復帰のきっかけにしたい。
- ・次回の高卒認定試験の勉強のため。
- ・進学

○ 高卒認定試験

受験者数5人 合格者2人、不合格1人、結果不明2人

イ 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことのない人に対するメッセージ
高卒認定試験のことは以前から知っていたが手続きの仕方が分からなかった。勉強を教えてもらえることもありがたいが、受験に向けてのアドバイスがありがたい。		自分のペースに合わせて教えてもらえる。
実際に高卒認定試験を受けて自分が合格できるとは思わなかった。	—	こんないいことを使わない手はない。
仕事・子育てをしながらの挑戦で勉強の時間も取れなかったが、相談できる場があったから高卒認定試験の受験に踏み切れた。	家から遠いから中々参加できない。同様の取り組みが近くにあるといい。	途中でおやつタイムがあるよ！
（日本語で読み書きとコミュニケーションができれば）問題の意味が解らなくても色々な例えで解るまで何度も教えてもらえるからいい。	中学生なので夜の勉強は家族に送迎してもらわないといけない。自分だけで通える範囲で開催されるといい。	日本語の勉強もできる。

ウ 支援スタッフ

人数	5人
スタッフの属性	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育教員OB 2人 ・高等学校教員（再雇用）1人 ・大学生 2人
どのようにしてスタッフを集めたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育教員OB 2人、高等学校教員は継続。 ・大学へのPR及びインターンシップ生へのPR。
今後も踏まえ、スタッフ確保のための良い方策、アイデアはあるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の内容及び主旨を多くの人に知ってもらうこと。 ・事業の継続で、常に学習支援が必要な状態を用意しておく。 ・教育支援者の人材バンクへの登録。 ・教育委員会や学生団体、近隣大学にコネクションを築く。 ・候補者の技量を判定できる仕組みが必要。

エ 参加者への広報方法

公報方法	公報先	成果・課題
チラシ・説明	豊田市及びみよし市の公立高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県高等学校西三河北地区校長会ではセーフティーネットとして認識された。 ・高校の担当者の高卒認定試験への認知が高まったため、試験に必要な「単位修得証明書」の取り寄せの依頼を受験者がしやすくなった。
チラシ	豊田市内 28 交流館 (各中学校区に設置)	<ul style="list-style-type: none"> ・交流館は地域住民の交流拠点であり、行政情報を含む様々な情報を入手できる場所。そこに、「若者・外国人未来応援事業」の情報があることで多くの人の目に留まりやすい。 ※ 8 交流館は豊田市の支所・出張所と併設又は隣接 ・交流館職員が広告塔として期待できる。 ※ 交流館は豊田市文化振興財団が指定管理者
チラシ・説明	若者支援地域協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークを通じて多くの問い合わせが寄せられている。民生児童委員、スクールソーシャルワーカーなど。 ・反面、対象者が本事業に参加に至るケースは未だ少ない。
メールマガジン	豊田市青少年センター個人登録者	<ul style="list-style-type: none"> ・個人登録者数 5,160 人 (1 月末現在) ・興味のある人しか見ない。

オ 支援スタッフから見た成果と課題

成 果	<p>【やりがい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員OBとして、第2の活躍の場を与えられてとてもやりがいがある。 ・ 途中で来なくなってしまう子もいるから、一期一会のつもりで子どもたちに対して。 ・ 学習以外の相談に対応することにもやりがいを感じている。 <p>【個別指導の場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者の理解度に合わせてとことん付き合っ教えてあげることができる。 ・ 参加者の学力を見極めたうえで指導方針を決めて取り組むことができる。 ・ 学力レベル（基礎学力の習得度）の判定には中学生用の教材が適している（数学）。 ・ 本人の学力のどこが欠けているかを判断し、小・中・高の全ての内容に対応できる教材と指導法を研究している。 <p>【学習意欲の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者に具体的な目的を持たせることで（目的意識があれば）モチベーションの維持につながる。 ・ 認定試験の合格を目指すだけでなく、学習すること、物事を知ることの楽しさや喜びを学ばせることを意識して指導できた。 <p>【基礎学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11月以降は、試験対策の学習ではなく基礎学力の向上に取り組めた。 ・ 英語 日本のお話（英訳文）など身近な文章を教材にして長文読解力の向上につなげた。 ・ 数学 中学生教材を使って繰り返し復習し、基礎を徹底的に学ぶ機会になった。 <p>【日本語学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国籍者には日本語検定の学習を通して日本語力を高めさせた。また、検定を受験させてモチベーションの向上につなげた。
--------	---

課題	<p>【ニーズに合わせた学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者は定期テストの勉強など目の前のことが目的。しかし、指導者は学力の底上げ、学習習慣の確立と先を見据えた学習が目的。目指す目的に相違がある。必要な時にだけ来るが、そのうち来なくなってしまう。 <p>【外国籍の参加者への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣や価値観の相違に戸惑うことがたくさんあった。 送迎を保護者に頼っているために保護者の都合で参加できないことがある。 外国籍の参加者に教えるときには、日本語を分かり易い（簡単な）言葉に言い換えて教える必要がある。日本語学習支援の取組み強化が必要。
----	--

カ 運営者から見た成果と課題

成果	<p>【指導者の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「英語」「数学」「理科」の教員経験者と現役の学生（理系・文系各1）と指導者が充実したことで、幅の広い支援が可能になった。 現役の高校教員（理科担当）から高校現場の情報の取得や「単位取得証明書」の申請方法などアドバイスを得ることができた。 <p>【指導法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者のレベルや目的毎のグループで学習することで支援者の負担を軽減することができた。 高卒認定試験の直前には受験対策（在学生は定期テスト対策）の学習をし、それ以外の時期には基礎学力向上のための学習に充てるなど、時期に応じた学習支援ができた。 <p>【コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> 雑談やおやつを食べる時間など参加者・指導者を交えてコミュニケーションを大切にしてお互いに打ち解けて学習できる空間を作ることができた。 <p>【運営ノウハウの蓄積】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習現場は学習支援者で、雑務は運営者で行うなど運営方法が確立した。 高卒認定試験や学習支援などの問い合わせに十分対応できるようになった。 <p>【学習意欲向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習日の設定が学習習慣につながっている。 学習の仕方が分かり、学ぶ面白さを提供できた。 同世代の仲間が身近にすることで、学習意欲や受験に対する意欲が高まった。 <p>【居場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> 週2回必ず来る必要もなく、開催時間中はいつ来ていつ帰っても構わない自由度が自分の学習のための居場所になっている。 <p>【相談相手の存在】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習支援者が参加者の身近な相談相手として機能している。 経験豊富な教員OBが将来のことを保護者と共に考えてくれる。 <p>【高卒認定試験の相談窓口】</p> <ul style="list-style-type: none"> 受験に向けた手続きについて、受験科目の選択方法や免除科目の証明方法など受験に関する問い合わせ・相談が増加した。 <p>【連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係機関のネットワークからの相談や紹介が増している。連携が機能していることを実感した。特に外国籍の参加者の増加につながった。 <p>【高卒認定試験の周知】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習支援事業が「高卒程度認定試験」のことを広く知ってもらうきっかけとなった。 受験案内が手元にあると説明が容易になった。（平成30年度より受験案内の配布場所に追加された） 高校中退者やその近親者が未来を想像するきっかけになっている。
----	---

課 題	<p>【指導法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科科目の指導者がいないことで専門的な学習プランが不足している。 <p>【開催日時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間の開催は大人にとって都合がよいが、子どもや自前の交通手段を持たない者には参加しづらい。中学生は保護者の送迎が必要になる。 <p>【事業実施期間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業期間が高卒認定試験に対応できていない。7月から開催では第1回の試験に対応できない。 ・次年度の事業開始までの空白期間が参加者の居場所（学習意欲と学習の場）を奪ってしまう。 <p>【連携・学習以外の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援ネットワーク関係者からの問い合わせはあるものの対象者が参加するに至るケースが少ない。対象者へ選択肢の一つとして提示していただいていると思われるが、結局は本人次第。 ・高校中退者（保護者）に学校から本事業の紹介を依頼しているが参加に至らない。 ・普通科高校の中途退学者は通信制の学校に転籍することを学校が促しているケースが多い。 ・高校中退者に高卒認定試験の受験を促していたが、家族間のトラブルが原因で来なくなってしまった。支援ネットワークで何らかの支援ができればよかった。（対象者だけでなく保護者を巻き込んで支援をする必要がある。） <p>【予算】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省からの委託終了後の継続のための財源確保が未定。 ・現在は空白期間を自己財源で埋めている。 <p>【実施会場の増設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通うことができる人しか参加できない（時間や距離の関係）。会場（運営者）を増やすことが望ましい。 <p>【個別の支援方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・途中で離れていった参加者に対してどこまで連絡を取り続けるのか？どんな方法で連絡をしたらいいのか？電話に出ない、メールの返信が無い。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験後の合否確認と合格後の進路の確認までできる受験者との信頼関係の構築が必要。 ・指導者の身分が臨時職員のため、連続雇用が5年未満の契約しかできない。
--------	---

<運営者の声>

本事業3年目を迎えるにあたり、過去2年間の成果と課題から私たちに今できる実効性のある支援は何かを考えてみました。そして「高校卒業」を目標に掲げ取り組むことにしました。

豊田市には外国籍の人・日系人が多く住んでいます。そんな中、幼少期の日本語教育が充実しておらず、義務教育の現場では日本語の授業についていけない小中学生が多くいます。そのような現状を踏まえ、この学習支援事業の範疇でできることを探しました。

T I A (豊田市国際交流協会) の日本語学習 (中学以上対象) に通う子どもたちの中で学習支援を必要としている生徒の受け入れを始めました。また、中学・高校在学中であっても授業についていけない生徒、不登校気味の生徒の受け入れもしました。

中学生は苦手科目の復習。高校生は主に定期テスト対策。できる限り個別に、理解が深まるまで対応しました。本来、高校生にも基礎学力を上げる学習をさせたいのですが、とりあえず進級・卒業を優先しています。それでも、ダメな場合は高卒認定試験にシフトします。ただし、免除科目があれば受験科目に絞った学習が可能になるため、できる限り退学しないように指導をしています。在学生にとって高卒認定試験は最終手段と考えています。

外国籍の生徒には日本語検定試験の勉強をさせることで日本語の理解力を向上させ、教科書やテスト問題の内容が理解できるようにするための取り組みを行いました。実際に日本語検定も受験させています。

中学生は第1目標を高校進学。次の目標を高校卒業と設定しています。外国籍の子どもたちもできる限り一般枠での進学ができるように支援しています。基礎学力と日本語理解力が支援の2本柱です。

高卒認定試験受験者には出題傾向に合わせた実践的な指導をしました。今年度は5人がエントリーし2人全科目合格、1人不合格(1科目受験)、2人不明(連絡なし)という結果でした。合格した2人は自主学習の成果が大きかったようです。世界史が合格すれば全科目合格になる1人は残念ながら涙をのみました。仕事と子育てに追われ勉強する時間がなかなか取れないのが実情です。不明の2人は試験のエントリーまでは支援できていたのですが試験を前にして連絡が途絶えてしまいました。残念なことです。

このように、課題の解消も少しあり、課題の積み増しあり、そして成果と手応えのあった1年でした。

【最後に】

今年度も事業の開始時期がはっきりしていなく、運営者としてはモヤモヤの中での開始でした。一方、参加することが楽しいと思われるように様々な工夫を凝らしました。

毎回おやつをつくったり、世間話をしたり、コミュニケーションを大事にしながら和気あいあいとした雰囲気をつくることで居心地のいい空間づくりに努めました。先生方がおやつを差し入れてくれます。理科に興味を持たせるため、望遠鏡で天体観望をしたり、顕微鏡を使ったり、化石をさわってみたり学習方法にも工夫を凝らしました。12月には部屋にクリスマスツリーが飾られます。ケーキを食べておしゃべりをして2019年を終えました。

「若者未来塾」はそこに集った者がそれぞれの未来を見つめることのできる場所です。みんなが明るい未来を見つけられる場所として今後も運営していきたいと思えます。

S君 (22歳 男性)

S君はとても礼儀正しい好青年です。

彼が「若者未来塾」にやってきたのは2年前。彼は事業開始当初から通う一番の古株(?)なのです。中学を卒業して通信制の高校に進学するも中退。その後、特に何をすることもなく過ごしてきたようです。

W先生はS君の小学校時代の元校長先生です。先生は当時のことを覚えていました。学校のことお母さんのことなど懐かしそうに話されていました。

彼は「勉強は全般に苦手。特に数学は苦手」とのことでした。学習意欲が感じられないこともありましたが悩みを抱えている様子も見られたため、若者サポートステーションで相談を受けることになりました。何度か相談を受けるうちに未来塾でも自分のことを話してくれるようになりました。

2年目になりました。前年は高卒認定試験の受験をしませんでしたが、第1回の試験に申し込みました。英語・国語・数学・物理・科学と人間生活の5科目です。理科の科目選択理由を聞いたら「1日しか体力が持たない」との理由で、初日の科目だけ申し込んだとのことでした。必須3教科は仕方ないとしても、“特に数学が苦手”なS君が物理！先生方もビックリでした。でも初挑戦だし、当たって砕けろでいこう！S君の挑戦が始まりました。

英語はT先生の担当です。過去問を繰り返し学習して“点の取れるところは確実にとる”戦略で勉強をしました。数学はW先生です。出題の傾向に合わせた演習です。理科はK先生。物理基礎を教科書の頭から学習していきました。

あっという間に8月になり試験の日を迎えました。先生方の予想は3/5（四捨五入して）。後日の自己採点でも3/5（四捨五入無し）。でも、よく頑張ったじゃない。とりあえず祝福ムードでした。

9月に試験結果が出ました。彼の口から「全部受かってました！」。またまた、みんなビックリでした。その後、11月の試験で残り科目も合格し、S君は晴れて高卒認定を勝ち取りました。

S君は歌がとっても上手なんです。未来塾の忘年会とS君の高卒認定試験突破のお祝いを兼ねて食事会をしました。その後のカラオケで、S君の歌にみんなビックリ！驚異の歌唱力!!

そんな風にいつもみんなを驚かすS君。今では、T先生とW先生が所属する男声合唱団と一緒に歌っています。

○ 事業実施市協力課から見た本事業の成果と課題

豊田市子ども部次世代育成課

1 本市の子ども・若者育成支援体制

団体名	対象	主な事業の概要	対象案件※
とよた子どもの権利相談室 (次世代育成課)	18歳未満※高校生については、卒業するまで。	子どもの権利の侵害に対する救済及び回復のための相談業務	①②③④
豊田市若者サポートステーション (次世代育成課)	中学校を卒業した15から39歳まで	常設の相談窓口のほか、居場所事業や職業体験、就労支援などを行うユニット・ひきこもりの自立支援機関	①②③⑧
福祉総合相談課	経済的に学習機会を得ることが難しい世帯の小中高生	経済的に学習機会が得られない世帯の子どもに対する学習支援	①②⑤⑥⑦
青少年相談センター パークとよた (学校教育課)	19歳まで	青少年の自立支援教室「こもれび」 高校中退者等を対象に、学習・体験活動を通じた社会復帰プログラム	①②③④⑥
豊田加茂福祉相談センター	—	児童虐待や養護、障がい、里親等に関する相談業務	④⑦
豊田公共職業安定所 (ハローワーク)	—	職業相談・紹介、個別相談、面接等各種セミナーの実施	⑧

※対象案件：①ひきこもり ②不登校 ③中卒・高校中退 ④いじめ・虐待 ⑤貧困
⑥学習支援 ⑦発達障害 ⑧就労支援

2 本事業から生まれた新たな連携

- ・国際交流協会（T I A）からの紹介で本来対象者ではないが、外国人の方（中学生）を受入れ、日本語検定試験の準備と学校での授業の復習を行い高校進学を目指している。
- ・本事業と他部署の学習支援事業と連携して、切れ目のない学習支援を実施した。
- ・若者サポートステーションの相談事業に通所している若者に学習意欲があったので、若者・外国人未来塾の学習支援の紹介をした。
- ・講師に現役の高校教員がいるため、高校生の学校での様子や高校中退者の現状を知ることができた。
- ・校長会を通じて、若者・外国人未来応援事業のPRとチラシを配架することで、切れ目のない支援を実施できた。

3 本事業の有効性

(1) 参加者の意識や行動の変化

- ①学習の習慣が身についた。②ひきこもり状態が少し解消された。
- ③潜在的な問題が把握できた。

(2) 関係機関の連携の深化

- ①情報交換が活発になり、交流が深まった。
- ②協働して自立支援に取り組む体制が強化された。

4 課題と展望

- ・中退者を出さないように、小中学生、現役高校生への学習支援。
- ・事業継続の方向性についての検討と予算の確保

豊橋地域

ア 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズを持っているのか）

- 参加者 23人（男10人・女13人） 居住地 市内20人、市外2人、不明1人
- 年齢 ※参加時の年齢、（ ）は外国人数

10代前半	10代後半	20代	30代以上
6人（6）	6人（4）	7人（1）	4人（2）

- 学歴 ※（ ）は外国人数

中卒	高校中退	高校在籍	中・小学校在籍	外国人学校在籍	その他
3人（0）	8人（3）	1人（0）	3人（3）	3人（3）	5人（4）

- 状況・ニーズ・学ぶ目的

- ・兄弟で参加（3兄弟）日本語の勉強を希望。3兄弟の上の2人はアルバイト中。一番下は日本語検定のN5に合格したい。
- ・叔父・姪の二人で参加。日本語検定のN5に合格したい。日本語が話せないと困る。
- ・高校時代は日本とブラジルの両方で過ごしたが、どちらも続かず中退してしまった。
- ・小学3年生から不登校になりそのままひきこもっていた。就職のため高卒資格希望。
- ・働くために欲しい資格があるが受験資格に高卒が必要なので高認試験に合格したい。
- ・高校に通うことが苦痛になってしまったので中退して高認試験合格を目指そうか…。
- ・仕事のために、日本語の勉強をしたい。高認もいつか受けたい。
- ・いつかは高認試験を受けないとな…と思っていた。
- ・バイトをしながら高認試験にチャレンジ。
- ・通信で高卒資格を得るのは難しいと思い、学習支援に参加。子育て中。子供が大きくなったら仕事も変えたい。
- ・ブラジル人のお母さんに「自分では勉強を見てあげられないから」と兄弟で連れられてきた。

- 高卒認定試験

受験者7人 合格者3人 科目合格者3人

イ 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことのない人に対するメッセージ
漢字1年から3年まで習いました。勉強は楽しいです。少しずつ日本語が分かる。先生たちは優しい。この場所は好きです。	数学をもっと勉強したい。	友達に教えてあげる。
2年生と3年生の漢字は難しい。日本語クラスは楽しい。先生たちは優しい。少しずつ日本語を学ぶ。	日本語をもっとみがきたい。	友達に教えてあげる。
少し日本語が分かるとうれしいです。先生はよく教えます。勉強は面白い。	これからは生物を勉強したい。	友達に教えてあげる。
日本語が少し分かるようになった。日本語ちょっと難しい。でも楽しい。この場所は好き。日本語を学ぶのも好き。	もっと日本語能力試験の勉強をしたい。漢字をもっと習いたい。	日本語を学ぶのに良い場所です。
日本語を楽しく勉強している。ありがとうございます。		
色んなことを教えてもらうから、テストもどんどん満点に近づいていって、勉強してよかった。先生も優しい。分かりやすく工夫してくれて、もし分か	ない	ここは優しい先生がたくさんいます。分からない所やできない勉強を教えてくれる場所

<p>らなかったら手をあげて呼べば来てくれる。苦手の勉強も得意になってきた。教えてくれるからうれしい。ここに勉強しに来ていて、どんどんなれてきました。もし勉強会がやっていなかったら、私は何も分からなかったと思います。とても楽しいです。</p>		<p>です。もし良かったら私たちと一緒に勉強しませんか？</p>
<p>色々なことを覚えることができてよかった</p>	<p>ない</p>	<p>お金が不要なのが良い。ゆっくりと勉強できる。</p>

ウ 支援スタッフ

<p>人数</p>	<p>4人</p>
<p>スタッフの属性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許・2級キャリアコンサルタント技能士（国家資格）の保有者 ・働きながら通信制の大学に通っている者 ・大学への再入学も考えている者 ・若者
<p>どのようにしてスタッフを集めたか。</p>	<p>私に関わったサポステやNPOとしての活動を通して、元気になった若者たちの中から、勉強を教える力と気持ちを持っている者をスタッフとした。</p>

エ 参加者への広報方法

<p>広報方法</p>	<p>広報先</p>	<p>成果・課題</p>
<p>チラシ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村の子ども若者の相談窓口 ・保健所の相談窓口 ・青少年が集まる施設等 	<p>今のところ連絡はありません。</p>

オ 支援者（スタッフ）から見た成果と課題

<p>成果</p>	<p>【指導力の向上】 数学では、最初の基礎計算ができない生徒に基礎を教えることになり、どのようなステップを踏めば理解してもらえるかを考えることにより、自身がどのように考えているかを文章に書きだして客観視することができるようになった。この点に関しては成果を感じている。</p> <p>【異なる文化への学び】 学習支援に参加しているペルーの子たちは、兄弟や叔父・姪間の仲がとても良いです。特に3兄弟の仲がとてもよく、お互いに教えあったりしながら、一生懸命に、けれども笑い声がよく響く学習支援の場となっていて、日本人にはない明るさだったり、「日本語の勉強は大変だけど、楽しい。」と答える彼らの姿勢に、教えているこちらもうれしく思います。また日本語の理解力の差によって、より日本語ができる子にできない子へ通訳してもらったりして、みんなで一緒に助け合って勉強している所もあります。日本人の子だけだった時とはまた違った勉強に対する取り組みや人との関わり方をスタッフの私も学んでいます。</p>
<p>課題</p>	<p>【指導法について】 読み書きが日本人と同等の能力ではない外国人の支援をすることになり、どのような教育方法が効率的かを模索する必要があった。教科書で学び、問題をどのように解くかといった従来の学習支援のイメージとは異なり、イラストやインターネットの検索画像などを用いて説明するという方法をとるようにしている。特に、日本語ができない外国人に日本語を教える際は、参考になる図書が非常に少なく日本人向けの小学生の教科書があまり有益ではないと感じた。漢字などを教えることはできるが、文章構造を教える際は、スペイン語、あるいはポルトガル語を理解しているスタッフの補填が望まれる。</p> <p>【スペース】 これ以上参加者が増えると、一部屋では教えきれなくなってしまい不便になることです。</p>

カ 運営者から見た成果と課題及びまとめ

<p>成果</p>	<p>外国人（ペルー）の子ども若者が増えて来たので、勉強をしている場が明るくなっている。高卒認定を取りたいという日本人の人たちが少なくなっているのは少し寂しいが、継続して学ぶ意欲のある外国人の子たちの対応は教える側も楽しく、またスペイン語やペルーのことを、教える側のスタッフである自分たちが教えてもらうような状況になっている。お互いに学ぶという形ができています。</p>
<p>課題</p>	<p>外国人の子どもや若者が増えて来たので、高校中退で高卒認定を取りたいという日本人の内気な人たちは、勉強に参加することが少し難しい状況がある。日本人のみでやっていた時は、各々が静かに課題に取り組んでいたが、外国人の若者はファミリーで参加することもあり、お互いに教えあったりすることも含めてよくしゃべるので、外国人の子ども若者たちと、高卒認定を目指す日本人の若者たちを分けていく必要が出て来たと思う。</p>
<p>まとめ</p>	<p>高卒認定を取って専門学校や大学へ進みたいという日本の若者たちよりも、日本語をまず学んで、次に高卒認定を取りたいという外国人の若者の方が活力はある。日本人の若者は継続して学習支援に参加する意欲がある子が少なく、課題に書いたように、今後は場所時間帯も変えていくことで対応していきたいと考えている。</p>

参加者ピックアップコラム

NPO法人いまから 事業担当者

Yさん（26歳 女性）

サポートステーションに26歳の女性が働きたいと相談に来ました。話を聞くと、小学校3年生からほとんど学校に行っておらず、今までずっと自宅に引きこもっていました。就労に向けた話をする中で、高卒認定の話をしたら「受けてみたい」と言ったので、働くことと同時進行で高卒認定の勉強を始めました。彼女は小学校3年生から学校で勉強していなかったのですが、私は今までに小学校1～2年生から学校に行かなかった若者たちに勉強を教えて、彼らが高卒認定や大学受験に合格するまでを支援してきた経験があるので、彼女にやる気があれば大丈夫だと思っていました。それは今も同じで、本人のやる気さえあれば必ずできると思っています。

彼女はネットサーフィンを小学校5年生から始めていて、興味のあることを色々と自分で調べていました。さらに英語の歌を聴くことが好きで、自分で英語を日本語に訳して聞いていたので、私の所に来た時点で高卒認定試験の英語の過去問は合格点を取れる力があったのです。彼女には「数学と理科を教えて欲しい」と言われたので、高卒試験で合格点が取れるように教えました。当時受験まで半年足らずだったのですが、私は「彼女なら受かるのではないかと」予想していましたので、彼女から「受験した8教科全て合格した」と報告を受けた時も驚きはしませんでした（スタッフは驚いていましたが）。彼女自身も合格しても淡々としていました。18年もひきこもっていたのですが、サポートステーションでの支援を受けて働き出し今現在も仕事を続けていて、高卒認定試験も一度で合格しました。これを聞くと、猛勉強をしたと思われると思いますが、実際はそうではなくて、私が教えたことを彼女が素直に吸収しただけなのです。ずっと学校に行っていなかったため、勉強に対する苦手意識がなく、「勉強が嫌だ」とか「〇〇の科目は苦手」だとか、「試験に受からないのでは」などの発言がなく、ただ淡々と勉強をして合格したのです。

私は以前から、ひきこもりは何年ひきこもっていたか等の時間的な長さよりも、どのような状態でひきこもっていたかが重要だと思っているのですが、彼女はまるで見本のようにそれを教えてくれました。

○ 事業実施市協力課から見た本事業の成果と課題

豊橋市子ども未来部子ども若者総合相談支援センター

成果

○若者・外国人の選択肢として

本市では、子ども・若者支援地域協議会で、子ども若者支援の連携を目指しているところであるが、高卒認定試験や外国人の学習支援については支援の層が薄い部分である。本事業により、高卒認定を目指す若者や外国人支援の選択肢が広がった。

○経済的負担の軽減

対象者の中には、生活困窮世帯やひとり親家庭など家庭環境の状況によって、高校進学を断念した者や高校中退をせざるを得なかった者がおり、本事業のように経済的側面に左右されず、自らの意思で無料で学び直しができることは、対象者の希望につながっている。

○外国人への支援

外国人が就労するにあたっては、日本語能力の状況によって、就労の幅が広がる場合が多く、本事業では外国人の若者の基礎的な日本語の読み書きからはじめ、高卒認定試験の合格者も出している。外国人の就労の幅が広がることで、外国人の生活が豊かになることが考えられる。

○居場所という役割

家庭環境や対人関係のつまずき、または言語の違いによるコミュニケーションの困難さで、孤立していた若者や外国人が、自信をつけ回復することができている。

○対象者とスタッフの相互作用

回復した若者がスタッフとして参加することで、対象者のつまずきや傷つきに対し、身近なよき理解者としての役割を果たしている。対象者とスタッフで同じ方向を向いて、高卒認定試験合格を目指すことで、お互いに試行錯誤しながら成長することができている。

○若者サポートステーション（以下、サポステ）とのつながり

本事業の受託者は、サポステの運営もしているため、若者の相談支援や個別に応じた自己分析、就労支援、その後のフォローアップまでが可能である。本事業を利用している中でサポステのサービスにつながったり、サポステの相談の中でひとつの選択肢として本事業につながることもあり、対象者の状況に応じた柔軟な対応が可能になっている。

課題

○広報及び周知

本事業が開始された平成 29 年から現在までの 3 か年で、豊橋市の外国人人口は 3,000 人以上増加しており、外国人の日本語能力習得の需要は年々増加していることが考えられるが、言語も多様であるため、外国人対象者に十分に周知できていない可能性がある。

本市の子ども・若者支援地域協議会では、本事業の説明と周知をしているものの、支援機関から本事業につながるケースは少なく、高卒認定よりも定時制高校や通信制高校を目指される者が多いようである。ただし、支援機関につながっていないケースの中には、高卒認定や日本語能力の習得を考えている若者がいるため、対象者へ行き届かせる周知が必要である。

○運用経費の負担

学力や個性に応じた個別指導ができることで、高校中退やひきこもりからの高卒認定試験合格が実現しているが、今後、外国人の参加者の増加が想定される中で、支援者のマンパワーの不足や事業拡大に向けての経費等、継続的な運営費の確保が必要になる。

春日井地域

ア 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズを持っているのか）

○ 参加者 5人（男0人、女5人） 居住地 市内3人、市外2人

○ 年齢

10代後半	20代前半	40代前半
2人	2人	1人

○ 学歴

中卒	高1中退	高校休学中	高卒	外国人
1人	3人	1人	0人	0人

○ 状況

- ・中学生の時から不登校。現在は通信制の高校を休学中。
- ・ひとり親家庭で、アルバイトをしながら家計を支えている。
- ・中学校卒業後、進学せず。現在はシングルマザーで、准看護学校に通いながら病院にて働いている。
- ・高校1年時に中退。アルバイトをしながら学習支援に通っている。
- ・就職活動中に本事業の紹介があり、学び直しを求めて参加した。

○ ニーズ・学ぶ目的

- ・現在、准看護学校に在学中で、2020年3月に卒業予定。正看護師になるために、高卒認定資格を取りたい。
- ・将来、高齢者に関わる仕事がしたい。今後、正看護師になれる学校を受験するため、高卒認定資格を取りたい。
- ・将来の目標は決まっていないが、高卒認定資格を取り、自分自身を変えていきたい。
- ・就職や仕事に役立てたい。学び直しがしたい。
- ・学習の方法や教材について相談がしたい。
- ・高卒認定試験に向けての勉強の仕方が知りたい。

○ 高卒認定試験

受験者数2人 合格者数0人

イ 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことのない人に対するメッセージ
塾や家庭教師とは違い、自分のペースに合わせて学習を支援してくれるので、わかりやすくありがたい。	本事業の空白期間がない方がよい。学習会が無くなってしまくと、わからないところを質問することが出来ない。	支援スタッフの人が、自分の学習ペースに合わせてくれるので学びやすく、学習会に参加してみたい。

支援スタッフの方が優しくて、会場に通いやすい。	—	—
最初は、自分自身暗かったけれど、少しずつ自信がついた。	—	とにかく参加してみしてほしい！

ウ 支援スタッフ

人数	5人
支援スタッフの属性	義務教育 教員OB 1人 大学生 1人（学習塾での指導経験あり） 社会人 3人（中学生向けの学習支援事業や塾での指導経験あり）
どのようにして支援スタッフを集めたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・当法人が近隣で運営する学習支援事業にて、支援スタッフの募集を行った。 ・春日井若者サポートステーションにて支援員の募集を行った。サポステ担当者より、2名の紹介があった。 ・愛知県社会福祉協議会のサポーターバンクに登録、求人を募集した。
今後も踏まえ、支援スタッフ確保のための良い方策、アイデアはあるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・春日井若者サポートステーションより支援員希望者2名の紹介があり、両名とも学習支援事業に対する熱意を持った方であった。サポステとの連携による求人募集は有効だと感じた。

エ 参加者への広報方法

広報方法	広報先	成果・課題
チラシ配布先	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村の相談窓口 ・保健所の相談窓口 ・春日井地区協議会の参加団体 ・高齢者介護居宅支援事業所 ・春日井若者サポートステーション ・市民向けフォーラム 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ配布と併せて、事業説明を行うことで、事業に関心を持ってもらえた。 相談窓口から、チラシを配布頂き、利用へ繋がったケースがあった。 ・チラシ配布と併せて、事業説明が必要。 ・子ども、若者に関する相談窓口だけではなく、居宅介護支援事業所のケアマネージャーの方からも相談が1件あった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口に繋がっていない対象者への広報の方法を考える必要がある。

オ 支援スタッフから見た成果と課題

成 果	<p>【個別指導の場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数に対する学習会なので、一人ひとりの参加者の学習進捗やその日の様子に合わせて、学習を支援することが出来る。 <p>【学習意欲向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援を進めるにつれ、少しずつ自信が付き、積極的に学習に取り組んでくれるようになった。参加者から宿題をもっと出して欲しいとの要望もあった。 <p>【学力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの学習のつまずきを見極めるため、相手が理解しているか、相手の様子をよく見るようになった。 ・自信をもって学習支援ができるように、自らも勉強する様になった。 ・一人ひとりの参加者によって、教え方が変わってきた。 <p>【学び直しの場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の学び直しの場合となっている。支援スタッフが利用者の様子を見ながら、分からないまま進むことがないようにしている。 <p>【信頼できる支援スタッフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者と支援スタッフの距離が近く、支援スタッフ同士も話し合える場になっている。 <p>【指導法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援スタッフ内で担当科目を決めて、学習を行った。 ・個別の支援だけでなく、集団でペアワークを取り入れた学習会も行った。
課 題	<p>【参加者人数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと参加者に参加してほしい。もっと事業のことを宣伝したい。 <p>【時間不足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事と学習のバランス、自宅学習をどうサポートできるか課題。 <p>【指導法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高卒認定の資格取得が目標にあるが、資格取得後も意識した支援が必要。 <p>【相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援には取り組めたが、身の回りや仕事のことなどの生活相談には乗れなかった。 <p>【指導力・指導方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者が高卒認定試験を受験したが、会場の雰囲気に慣れずに緊張してしまったため、会場の雰囲気に慣れさせるような取り組みも必要だった。 ・月の学習目標を明確にして、参加者を安心させることが必要。

カ 運営者から見た成果と課題

成 果	<p>【学習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の中には学校に馴染めず、ほとんど勉強をする機会が無く、自信を無くしているケースがあったが、つまずいている部分に遡り学習をすることで、自信を取り戻していった。自宅で学習するリズムも出来てきた。 ・参加者は、仕事と学習会のバランスを見ながら、継続的に学習会に参加してくれた。 ・グループワークを通して、参加者同士の交流が増え、仲間意識が芽生えた。各参加者の学習会への継続的な参加に繋がった。 <p>【支援スタッフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援スタッフは、自分たちの経験（失敗も含めて）や知識を活かしながら、「学習会を楽しく」という意識をもって事業に関わってくれた。学習計画や学習方法の提案もあり、主体的に事業に取り組んでくれた。 <p>【指導方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元教員の方が、参加者、支援スタッフを巻き込んで、ペアワークを取り入れた指導を行った。参加者も学習を楽しみながら、時には、コミュニケーショントレーニングを交えながら、指導をおこなった。 <p>【居場所・相談窓口として】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者からの相談は、学習だけではなく、仕事や家庭のことについての相談もあった。これまで相談できる場所や人が他になかったとのことで、参加者にとって1つの相談窓口となっている。
--------	--

	<p>【連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関とのネットワークが出来き、対象となる方に事業の紹介をして頂いた。 ・本事業や地域の課題などを相談できるようになった。
課題	<p>【連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者からの相談をどう関係機関に繋ぐか。また家庭問題については、保護者を関係機関に繋ぐ必要がある。 <p>【個別の支援方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習会への参加が、途切れてしまった参加者をどこまでどう支援を行なっていくか。 <p>【予算】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期的な支援が必要な人もいるため、事業の継続性が必要。 <p>【次年度までの空白期間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度の事業開始までに空白期間が出来てしまう。参加者にとっては、学習会が一定の居場所となっているため、事業が無くなってしまうことは、参加者にとっては酷だと感じる。他の地域については、自前やボランティアで空白期間の学習支援を行っているとのことだが、それを前提に事業を行うことは難しい。

<運営者の声>

【連携先に望むこと】

- ① 様々な相談をどの機関につなぐのか、どのような相談なら対応できるのかを明確にする必要がある。
- ② 他機関の中には、利用できる対象が決まっている場合があるため、参加者のニーズに合わせたマッチングが必要となる。
- ③ 他機関につないだ後の情報共有、その後の進展状況の共有を行っていききたい。

【まとめ】

7月上旬より事業を開始、当初の参加者は1名と少なく、余裕のあるスタートとなった。支援スタッフは、春日井若者サポートステーション利用者や地域の方をお願いをすることで、人材の確保をすることが出来た。

8月には、相談窓口より事業の紹介をして頂き、登録者3名となった。

事業開始1か月は、参加者の反応を見ながら、教材や支援方法を決定した。支援スタッフごとに担当科目を決め、支援を行った。ミーティングでは、支援スタッフから、教材や学習方法についての提案などが出され、主体的に事業に関わってくれた。

事業が進み、参加者との関係が深まると、仕事や家庭の課題や困難について話してくれるようになった。労働環境や家庭の状況から、学習会に参加出来ないケースもあり、他機関との連携の必要性を感じた。

また、参加者の年齢層も10代～40代と幅広く、生活困窮者自立支援制度の学習支援とは違った課題や困難が深刻化しているケースもあり、事業の難しさを感じた。

11月の高卒認定試験は、2名が科目を絞って受験をしたが、結果は2名とも不合格であった。

直前の高卒認定過去問題では合格点を取ることが出来ていたが、試験会場の雰囲気や慣れない試験問題に手こずり、本来の実力が出せなかった。科目の学習と合わせて、試験の雰囲気に慣れる様な取り組みが必要であった。11月の試験では不合格になってしまったが、次年度の受験を目指し、2名とも気持ちを切り替え、学習に取り組んでいる。

本事業は、高卒認定試験に向けた学習支援と、地域にて切れ目のない支援体制をつくるのが目的となっているが、それらと併せて事業に関わる当事者の変化が大切だと感じた。

事業開始から参加しているAさんは、自分を変えたい、今後に活かしたいという強い思いがあり、仕事が終わった後に、40分かけて学習会に参加している。

学習会に参加した当初は、学習会の感想もネガティブなことを書くことが多く、自己肯定感も低く自信もない様子だったが、支援スタッフとの関係や学習が進むにつれ自信を持ち、感想も前向きなものに変化した。休憩中の会話や相談内容も、学習のことからプライベートのことまで、少しずつ話してくれる様になり、現在は相談内容の一つひとつ整理しながら支援を進めている。4月からも気持ちを持續してもらえる様にサポートしていければと考えている。

本事業は、学習支援だけでなく、利用者の背景も含めた大変意義のある事業だと感じている。だからこそ、切れ目のない継続的な支援が必要だと思う。

知多地域

ア 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズを持っているのか）

○ 参加者 3人（男性3人、女性0人） 居住地 市内0人、市外3人

○ 年齢

20代後半	30代前半
1人	2人

○ 学歴

中学校卒業	高校2年次中退	専門学校卒
1人	1人	1人

○ 状況

- ① 中学校卒業後～現在に至るまで無業状態。高認試験の存在は知っていたが、挑戦できずにいた。本事業を機にトライすることを決める。
- ② 高等学校2年次中退。悶々としながらも働かなければと思い、就労移行支援事業所へ通い始める。小、中学校時から不登校気味。
- ③ 現在就労中。就労移行支援事業所のサービスを受け、現在の仕事（情報関係）に就く。

○ 参加の動機

- ① 学歴コンプレックスが強く、高卒程度認定試験に挑戦したいという気持ちをくすぶらせていた。これを機に終止符を打ちたい。
- ② 他所の支援を受けつつ就活をしているが、中卒よりも有利になるのではと考え、11月試験を目指すことに。事業所からの紹介。
- ③ 現在の職場で推奨されているITパスポートの資格を取得したいが勉強習慣がなく、どう手を付けていいかわからない。学習計画を立てて欲しい。

○ 高卒程度認定試験受験状況（11月試験）

受験者数2人 合格者数2人（8/8科目 2/2科目）

イ 支援スタッフ

人数	3名
スタッフの属性	<ul style="list-style-type: none"> ・心理系大学院生 1名（家庭教師、社会人経験あり） ・臨床心理士 1名（家庭教師経験あり） ・キャリアコンサルタント 1名（語学堪能）
スタッフの集め方	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院生、臨床心理士の2名は人脈を活用 ・キャリアコンサルタントはサポステ事業との兼務者
スタッフ確保の為の方策	<ul style="list-style-type: none"> ・特殊な事業上（誰でもいい訳ではない、勤務日時が少ない）、適した人材の確保が困難。求人を出すよりも、人脈をあたる。

ウ 参加者への広報方法

広報方法	広報先	成果・課題
チラシ	<ul style="list-style-type: none"> ・知多半島5市5町の役所窓口 ・常滑市学校教育課 ・5市5町の社会福祉協議会 ・公の施設(図書館、公民館、体育館等) ・連携支援機関 	<ul style="list-style-type: none"> ・計3,000部を配布。(増刷1,000部) チラシを見ての問い合わせはなく、配布数の割に効果を感じられない。ニーズの高そうな機関に絞って連携を取る方が効率的。 ・学校は直接訪問しても効果が薄いため、市町を通す方が無難。
<ul style="list-style-type: none"> ・市HP ・facebook 	<ul style="list-style-type: none"> ・常滑市HP掲載 ・不定期掲載中 	<ul style="list-style-type: none"> ・常滑市は1月から掲載予定。自社HPとも人々が目にする機会に乏しいと思われるため、周知には程遠いか。

エ 支援スタッフから見た成果と課題

成果	<p>【個々のパーソナリティに合わせての対応～合格～】</p> <p>高卒認定試験に向けた学習支援に参加していたのは2名。目的は同じでもそれぞれ、科目数、学習意欲、経験、基礎学力等が違うため、当初はパーソナリティを早期に掴むことを意識した。</p> <p>勉強だけを教える場というよりは「なんでも気軽に話せる空間づくり」を意識し、関係構築を目指した上での学習支援計画を考えた。</p> <p>Aさんは「目的が定まると一人で進められるタイプ」だが8科目を受験しなければならない。Bさんは「残り2科目を通せば合格だが、勉強があまり得意でなくテキストを眺めても集中できないタイプ」であった。</p> <p>Aさんは毎週課題を出すと必ずこなしてくるので、無理ないペースかつ受験科目を全て間に合わせられるような宿題を課すことでモチベーションの向上と維持に繋がった様子であった。正直3ヶ月で合格出来るのか、支援側としても一抹の不安があったのは確かだが、Aさんを信じるのが大切なように思っていた。</p> <p>Bさんは初めから堅苦しい勉強を推すと挫折するリスクがあったため、テキストではなく漫画から勉強意欲を高める計画を立てた。予測の通り、徐々に学習習慣がついてきて、早い段階からテキストへ移行できた。過去問を解いてもらっても、正解しており、本人も漫画効果の高さを確認していた。</p> <p>週1～2日という頻度も丁度よかったようで、出席率も非常に高い状態で試験を迎え、2名とも合格するという最大の成果を出す事が出来た。</p>
----	---

課 題	<p>【対応人数の限界】</p> <p>今年度の体制として支援側は2～3名体制、利用者も2～3名であったため、きめ細かな対応が叶ったが、これ以上の利用が見込まれた場合にサービスの質低下は避けられない。支援員1人が対応可能なのは3名までが限界と感じている。</p>
	<p>【環境上の限界】</p> <p>学習のためのセミナールームを極力確保できるようにしたものの、隣接した部屋からの騒音や、部屋を確保できなかったときの対処が難しい。中には音に過敏な方もみえるので、なるべく快適な環境を用意する必要がある。</p>
	<p>【試験直前】</p> <p>週2の設計で運営していたが、直前期は実施日を多くする等の工夫が必要であった。</p>

オ 運営者から見た成果と課題

成 果	<p>【学習機会の提供 / 学習、生活習慣の定着と改善】</p> <p>定期的学習機会の提供は計画通り、滞りなく進んだ。参加人数こそ少ないが出席率は高く、本事業の目的に沿えたといえる。「合格率100%達成」は人選が上手くいった点が極めて大きい。</p>
	<p>【キャリア形成支援】</p> <p>試験合格だけでなく、その先の「就職」や「資格取得」についても学習支援の中で話し合っている。また、学習支援員と担当キャリアコンサルタントの情報共有、引継ぎもスムーズである。</p> <p>【居場所】</p> <p>時にコミュニケーションツールを活用し、リフレッシュの時間を設けた。利用者の出席率、継続率に繋がったように思う。</p>
課 題	<p>【周知】</p> <p>初年度のため致し方ない面もあるが、広報活動の割に事業が浸透したとは言えない。広報手段の方法自体を再検討する必要がある。</p> <p>【次年度の人員体制】</p> <p>今年度活躍した支援員は全員卒業。引継ぎと新体制を早期構築しなければならないが、候補者に乏しい。</p>

4 令和元年度「若者未来応援協議会」の実施状況

(1) 開催日と協議内容等について

【合同協議会】

開催回	協議内容等
第1回（8月30日）	平成30年度本事業の実施概要等、令和元年度本事業の実施概要及び実施状況、本事業における課題について
第2回（3月6日）	成果報告書、事業報告及び課題、令和2年度本事業について

【研究部会】

開催回	協議内容等
第1回（12月2日）	各地域の取組状況、成果報告書作成について
第2回（2月6日）	成果報告書及び事業報告について、課題及び令和2年度本事業について

【名古屋地区協議会】

開催回	協議内容等
第1回（8月30日）	平成30年度及び令和元年度本事業の実施概要、名古屋地域における成果と課題について、地区リーフレットの作成について
第2回（1月23日）	取組状況報告について、課題及び令和2年度本事業について

【豊田地区協議会】

開催回	協議内容等
第1回（7月30日）	事業概要説明、地区リーフレットの作成について
第2回（2月28日）	（新型コロナウイルス関連により中止のため、資料配付のみ。）令和元年度の取組状況及び成果と課題について（豊田地域）

【豊橋地区協議会】

開催回	協議内容等
第1回（8月16日）	事業概要説明、地区リーフレットの作成について
第2回（1月8日）	事業進捗報告、地区リーフレットの活用について

【春日井地区協議会】

開催回	協議内容等
第1回（8月28日）	事業概要、各所属の業務紹介、春日井地域における連携及び地区リーフレットの作成について
第2回（2月13日）	実施状況報告及び課題について、地区リーフレットの活用及び令和2年度本事業について

【知多地域地区協議会】

開催回	協議内容等
第1回（8月9日）	事業概要、各所属の業務紹介、知多地域地区における連携及び地区リーフレットの作成について
第2回（2月28日）	実施状況報告及び成果と課題について、令和2年度本事業について

なお、今年度、豊田地区協議会は「豊田市若者支援地域協議会」の一部に、豊橋地区協議会は「豊橋市子ども・若者支援地域協議会」の一部に位置付けて開催した。

(2) 連携状況について（アンケート調査結果より）

「いつ、どんなことで、どんな連携をしましたか。」

委託先	NPO法人あいち・子どもNPOセンター	
	7月下旬 9月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市内及び周辺地域の公共施設にチラシの配置をお願いした。 ・南区大高クリニック（精神科）デイケア担当者より高校中退者2名を学習支援と一緒に来所したいと連絡があった。
	9月中旬 9月下旬	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市中区役所民生子ども課より紹介したい旨連絡があった。 ・名古屋市内及び周辺地域の公共施設に2つ折りチラシの配置をお願いした。
	10月中旬 10月下旬	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市中川区役所民生子ども課より紹介したい旨連絡があった。 ・名古屋市港区役所民生子ども課より紹介したい旨連絡があった。
	豊田市文化振興財団（豊田市青少年センター）	
	7月下旬 9月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・本市若者支援地域協議会にて事業PRと連携の依頼をした。 ・T I A（豊田市国際交流協会）日本語学習支援団体トルシーダより紹介されたブラジル人男子（中学生）母子より事業の問い合わせがあった。
	10月初旬	<ul style="list-style-type: none"> ・パルクとよた（青少年相談センター）より17歳女子の学習支援について問い合わせがあった。
	1月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・T I Aより紹介されたモンゴル人小学生の保護者より問い合わせがあり、本市福祉総合相談課が運営する小中学生を対象にした学習支援事業を紹介した。
	NPO法人いまから	
	不明 7月・10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ハローワークに置かせてもらっている学習支援のチラシを見て来た人がいた。 ・前年度に高卒認定に合格した人から聞いて来た人がいた。 ・外国人の世話をしている女性が紹介してくれた。 ・若者サポートステーションの相談者の中で高卒認定に興味があつて問い合わせせて来た人もいた。 ・定時制・通信制高校の説明会でブースを作って説明をした。
NPO法人ワーカーズコープ		
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・春日井若者サポートステーションにチラシ設置した。 ・愛知県教育委員会のホームページを閲覧された方より問い合わせがあり、面談後、事業への参加が決定した。 ・春日井市公共職業安定所の統括責任者へ事業説明・チラシ配布。数名対象になる方がいるとのことで、後日、公共職業安定所からの紹介で1名、事業参加が決定した。 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・春日井市役所青少年子ども部子ども政策課より1名参加希望があり、事業参加が決定した。※担当課を訪れた数名にはチラシを渡して頂いている。 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・春日井若者サポートステーションの支援員より、サポートステーション利用者の弟が不登校気味で、事業に参加出来るかどうかの問い合わせがあった。 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所に高卒認定試験、未来塾についての問い合わせが3件あり、いずれも保護者からの問い合わせ、一度見学したいとの話があった。 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所に利用希望の問い合わせがあり、参加が決定した。 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・春日井市役所青少年子ども部子ども政策課、春日井若者サポートステーションより、利用希望の紹介があり、学習会参加が決定した。 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・かちがわ一服亭より事業紹介を受けた保護者から、問い合わせと面談希望があった。 	

	NPO法人ICDS	
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・知多半島5市5町役所窓口へ広報 ・半田市秘書課職員から「外国人の日本語支援はして頂けるのか」との問い合わせを受ける。県と相談の上、現状日本語ニーズのみには対応出来ない旨を伝える。
	8月	<ul style="list-style-type: none"> ・半田保健所主催セミナー「ひきこもりの理解と対応」内アナウンス
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・半田保健所主催「ひきこもり地域継続支援ネットワーク会議」内アナウンス ・連携機関「就労移行支援事業所エール東海」への事業説明。後に1名の紹介を受ける。
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・常滑市学校教育課を經由し、同市中学校4校へチラシ配布
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・大府市議会「総務委員研修会」講演内アナウンス ・大府市主催「大府市子ども・若者支援地域協議会」内アナウンス
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・知多市主催「若者支援地域協議会全体実務者会議」内アナウンス ・「就労移行支援事業所エール東海」から1名の紹介を受ける。
	豊田市子ども部次世代育成課	
	5月下旬	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代育成課が行う、ニート・ひきこもりに関する支援機関が集まる豊田市若者支援地域協議会代表者会議で、若者・外国人未来応援事業の紹介を行った。
	7月下旬	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代育成課が行う、ニート・ひきこもりに関する支援機関が集まる豊田市若者支援地域協議会実務者会議で、若者・外国人未来応援事業の紹介を行った。
	8月下旬	<ul style="list-style-type: none"> ・若者サポートステーション居場所に参加している男性に若者・外国人未来応援事業を紹介し、その後学習支援事業に参加。
	豊橋市こども未来部こども若者総合相談支援センター	
	4月～通年	<ul style="list-style-type: none"> ・若者・外国人未来応援事業のチラシ及び地域若者サポートステーションの広報リーフレットをこども若者総合相談支援センターに設置。
	8月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・本市子ども・若者支援地域協議会代表者会議で、若者・外国人未来応援事業の案内を行った。
	1月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ・本市子ども・若者支援地域協議会実務者会議で、若者・外国人未来応援事業の案内を行った。
	愛知労働局職業安定部訓練室	
	従来から継続して実施	<ul style="list-style-type: none"> ・「ハロートレーニングのご案内」（毎月発行）及び地域若者サポートステーションの広報リーフレットを生涯学習推進センターに設置。
	愛知労働局職業安定部職業安定課	
	9月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・在学中や離学段階での相談先等の情報が、生徒や保護者へ適切に届くようにすることを目的としたリーフレットを作成し、配布。
	愛知県保健医療局健康医務部医務課こころの健康推進室	
	2月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・本県におけるひきこもり対策の取組状況の検証及び推進を目的とする「ひきこもり支援推進会議」で本事業の紹介を行った。
	愛知県福祉局福祉部地域福祉課	
	7月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・副知事をリーダーとする「子どもの貧困対策推進プロジェクトチーム」（事務局地域福祉課）第1回会議において本事業を説明した。
市協力課		
合同協議会		

愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課	
7月25日	・社会活動推進課が主催する「令和元年度愛知県子ども・若者支援地域協議会等連絡会議」において、「若者・外国人未来応援事業」を紹介した。
愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課多文化共生推進室	
11月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校に行けなかった若者や日本語を勉強している外国人の若者が語る会」について、Facebookに掲載し周知を図った。 ・「学校に行けなかった若者や日本語を勉強している外国人の若者が語る会」について、職員1名が出席し、学習者や支援者と意見交換を行った。 ・在名古屋ブラジル総領事館主催の教育フェア（名古屋市公会堂）において、若者・外国人未来応援事業のチラシを配布した。
12月上旬	
12月上旬	
愛知県労働局就業促進課	
従来から継続して実施	・「ヤング・ジョブ・あいち」及び6市町村の協力により実施している「若年者就職相談窓口事業」において、相談窓口に来た方（高校や大学の中退者、ひきこもり発達障害者等）の相談内容に応じてハローワークや地域若者サポートステーション、保健所、専門の相談機関等を紹介した。
愛知県労働局就業促進課（あいち若者職業支援センター）	
7月～	<ul style="list-style-type: none"> ・「高卒認定試験」受験案内及び学習支援チラシをヤング・ジョブ・あいち内に配架。 ・心理相談利用者に対して、高卒認定勉強会を紹介した。 （【女性】10代：1名、20代：2名、【男性】10代：4名、30代：1名） ・高卒認定勉強会参加者より合格の報告あり。 （【女性】10代：1名、20代：1名、【男性】10代：1名、30代：1名）
11月	
愛知県教育委員会高等学校教育課	
9月以降	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル校（西三河地区4校）にて、高校中退者及びその保護者への事業案内及び情報提供申込書の手渡しを行った。 ・愛知県高等学校生徒指導研究会にて資料配付及び説明をした。
12月4日	
愛知県教育委員会生涯学習課家庭教育相談員	
10月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期から不登校になった高2男子生徒の保護者との相談電話の中で進路変更の選択肢の1つとして本事業を輕易に紹介し、退学後でも学習支援や相談が受けられることを助言した。（その後の経過は不明） ・県内16名の家庭教育コーディネーター対象の第3回研修会において、若者・外国人未来応援事業について説明し、本年度3月卒業見込みである中3の相談対象者の中で、次の進路が未定である生徒・保護者に対して、本事業の紹介をするよう依頼した。
2月中旬	

(3) 合同協議会委員から見た事業の成果と課題（アンケート調査結果より）

機関名	成果	課題
愛知労働局 職業安定部 訓練室	<ul style="list-style-type: none"> 若年層が、仕事に就くことを希望する際の求職活動において、一つの選択肢としてハロートレーニングの受講があることを知っていただけ、職業訓練内容から具体的な職業イメージが持て、進路選択への効果が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 公的職業訓練の受講申込みにあたっては、ハローワークへの来所が必要となり、若年層におけるハローワークの認知度が課題。また、地域若者サポートステーションにおける支援のなかでも職業訓練への誘導もあるので、ハローワーク、地域若者サポートステーション双方の認知をしていただくための周知・広報が必要。
愛知労働局 職業安定部 職業安定課	<ul style="list-style-type: none"> 中学校を未就職で卒業したり、高校を中途退学し、これからの進路に悩んでいる若者や保護者に対しての相談先の周知をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> まだまだ周知不足であると思われるので、広く情報発信していくことが必要。
愛知県保健 医療局健康 医務部医務 課こころの 健康推進室	<ul style="list-style-type: none"> 学校を中退した者等に学び直す機会を提供することにより、社会からの孤立を防ぐことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象となる方に広く支援内容等の情報を届けることが重要である。
愛知県福祉 局福祉部地 域福祉課	<ul style="list-style-type: none"> 副知事をリーダーとする「子どもの貧困対策推進プロジェクトチーム」会議において、事業紹介が行われ、部局の垣根を越えた事業の周知が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 本庁レベルでは連携が図られているが、地域において本当に支援が必要な方たちへ必要な情報を届ける必要がある。
愛知県民 文化局民 生活部社会 活動推進課	—	—
愛知県民 文化局民 生活部社会 活動推進課 多文化共生 推進室	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の受託事業者が主催し、支援者や学習者と一般の方々が意見交換を行った「学校に行けなかった若者や日本語を勉強している外国人の若者が語る会」のようなスピノフ的な企画が生まれたことが成果と考える。支援者や学習者がこうした取組を自発的に行うことで、事業の良い面の見える化が進むとともに、受託者や学習者のモチベーションを引き出す効果が期待できた。 本事業は、学習者のキャリアアップに貢献していると認識している。外国人児童生徒は、多様性に理解のある教員や支援者と接することにより、日本に対する良いイメージが膨らむとともに、職業選択について自分事として捉え、学習意欲の向上につながっていると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人に対する周知の方法を見直し、多言語化を図るべきである。（チラシの多言語については、愛知県国際交流協会の協力を得てはどうか） 外国人児童生徒の学習支援を行っている方々にとって、本事業は非常に関心が高いが、市町村の首長部局（国際課・市民協働課）での周知があまり高くないと感じている。教育委員会に留まらず、首長部局への協力依頼も視野に入れるべきである。
愛知県労働 局就業促進 課	—	<ul style="list-style-type: none"> 「若年者就職相談窓口」の認知度が低く、支援を必要としている方々へ十分な情報が届いていない。

愛知県労働局就業促進課（あいち若者職業支援センター）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公務員試験の対策のため、大学・専門学校への進学のため、将来の選択肢を広げるため等の理由により、高卒認定試験の受験を希望している若者に対して、無料の学習支援事業を紹介することで、モチベーションを高める機会を提供できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度に引き続き、学習支援事業の開始は7月からだったが、もっと早い方が良い。若者・その家族が就職相談のために当センターへ来所し、前向きに進もうとしている時に、学習支援事業へつなぐまでの時間が空いてしまうと、モチベーションが低下してしまいかねない。
愛知県教育委員会高等学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語指導を必要とする高校生の教科指導や日本語教育を実施していただく意義は高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立の定時制高等学校には日本語指導を必要とする生徒が、多く在籍している。そういった生徒が学校以外で日本語を学ぶことができる機会を増やしていただきたい。 ・ 名古屋だけでなく、複数の拠点を設置するなど、参加しやすい環境を整備していただきたい。
愛知県教育委員会生涯学習課家庭教育相談員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校卒業後の進路未定者や高校中退の生徒・保護者に対して、家庭教育コーディネーターの働きかけにより、学校以外での学習支援や相談助言が受けられる環境の情報が提供できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校卒業とともに相談活動が終了した生徒の卒業後の情報を若者サポートステーション等の相談機関へどのようにつなぎ、共有していくか。 ・ 情報を提供する相手が限られているので、この情報を必要としている生徒・保護者には届いていない可能性が高い。従って、学校現場への周知の方法に工夫の余地がある。

5 学習支援に参加された皆さんの声

学習支援参加者（日本語学習含む。）にとって、この事業はどのようなものであったのでしょうか。学習支援参加者に、この事業での経験の振り返りを呼びかけたところ、何人かの方が応えてくれました。

直接記述してくれた方、インタビュー形式での回答等ありますが、学習支援参加者の貴重な「生の声」として掲載させていただきます。

「分からないことが分かるようになる」 Aさん（19歳・男性）名古屋地域

僕は、英語を教えてもらい、単語や文法がたくさん分かるようになりました。中学の頃は分からなかったものがなぜか簡単に分かりました。大学のテストも教えてくれるようなので、とてもありがたい気持ちでいっぱいです。

「学習支援について」 Bさん（21歳・男性）名古屋地域

私は中学・高校に1度も行ったことがなく、今、定時制の高校に入学するために中学の勉強をしているのですが、ボランティアの人がとても分かりやすく教えてくれて勉強が楽しいです。私はこの場所に来て良かったです。

「学習支援を受けて」 Cさん 名古屋地域

私は定年後の夢として、大学で学びたいと在職中から考えていました。私は喘息持ちのアレルギー体質を持っていて長い間苦しんできたので、特に、医療関係について学べたらと思っています。

そのため、まず高卒認定試験から挑戦しました。在職中から暇を見て勉強していましたので、何とかなるだろうと甘く考えていました。ところが、実際に受験して理科系の科目に合格できず、最初の壁にぶつかりました。そんな時に、雇用保険の失業給付の関係で、お世話になっていたハローワークにおいて、あいち・子どもNPOセンターの学習支援を紹介していただき、NPOの先生たちのお陰で高卒認定試験には合格することができました。

私には、やっとスタート台に立てたのかなとの思いです。次は大学入学センター試験の攻略です。まだ、夢の達成には遠い道のりですが、健康と時間の許す限り、頑張るつもりです。

まだまだ、NPOの先生たちにはお世話になりますが、よろしく申し上げます。

「お礼の言葉」 Dさん（51歳・女性）名古屋地域・日本語学習

県生涯学習推進センターのボランティアの先生たちありがとうございます。

私は去年の6月に中国から来ました。

8月の初めに尾張旭市民会館で外国人日本語支援の情報をもらいました。その後8月中旬から毎週火曜日午後の日本語教室に参加しました。

教室の先生たちに親切に教えて頂いて、4か月間いろいろと日本の文化や日常会話を勉強しました。以前は駅で運賃を機械にチャージする時に、機械が何を言っているのかわからなかったけど、今はチャージ機の言葉が大体わかります。電車に乗っている時の車内放送もわかるようになりました。ここで勉強できて本当によかったです。

最後に県生涯学習推進センターのボランティアの先生たちにもう一度お礼を言いたいです。いろいろお世話になりありがとうございました。

これからもよろしくお願いします。

「感謝」 Eさん 名古屋地域・日本語学習

鶴舞図書館で愛知生涯学習推進センターが開催する「週2時間無料日本語コース」のチラシを見ました。

このコースで半年近く日本語を勉強していますが、そこの先生に感謝しています。彼らは皆、私たちに時間、エネルギー、忍耐、親切に貢献するボランティアです（日本にきて、日本に住む予定の外国語を話す外国人）。

日本語の文章構造、文章、正確な発音を教えるほか、日本の歴史や文化、習慣などを紹介し、日本の日常生活をできるだけ早く理解し、適応させています。先生方に感謝します。

「学習支援を受けて」 Fさん（20歳・女性） 豊田地域

私は、高校を卒業して会社員として働いていました。働いてお金をためてから大学に行くためです。でも、高校卒業して時間が経つと学力が落ちてしまうことが心配でした。そんな時、日本語学習のために通っていた教室の先生から「若者未来塾」のこと聞きました。高校を卒業しているけれど大丈夫かな？と思ったけれど聞いてみました。お話を聞いてくれた未来塾のW先生から「大丈夫だよ。一緒に頑張ろう。」と言われて通うことになりました。仕事が終わってから通うから時間が短かったり、残業で行けない日もあったりしましたが大学受験に向けて勉強を始めました。

私は車を持っていないため母に送迎してもらいました。しばらくすると中学生の妹と一緒に通いだしました。母が先生に頼んでくれました。そのうちに、妹の同級生、下の妹とその同級生とあつという間に5人で賑やかに勉強することになりました。先生からは「お姉さんが勉強している姿を見ると妹たちも頑張るから」と言われ、自分のためでもあるけれど妹たちのためにもしっかり勉強しよう！と、できる限り通いました。

私の夢は管理栄養士になることです。高校時代はダンス部に所属して、仲間と一緒に練習や大会出場など青春を謳歌していましたが、実は貧血に悩まされていました。その治療をきっかけに食べ物の組み合わせなどについて栄養と健康に関心を持ったのがきっかけです。そんな私は、「若者未来塾」から、夢に向かうステップを踏み出しました。

年が変わりいよいよ大学受験の年になりました。最初は一般入試を受験するつもりでしたが、未来塾のK先生から「AO入試」を勧められました。K先生は高校の現役の先生です。オープンキャンパスのことや願書の出し方などいろいろ教えてもらえ、とても助かりまし

た。エントリーシートへの書き方や面談の練習には大学生のN先生がアドバイスをくれました。そして、面談への準備を着々と進めていきました。

面談ではとても緊張しましたが、先生方から「自分に自信を持つこと！練習通り臨めば大丈夫！」と背中を押されていたので、自身をもって臨むことができました。

1か月後、「合格」の通知が届きました。私は、春からは大学で、夢に向かう次のステップを踏み出します。

「学習支援を受けて感じたこと」 Gさん（36歳・男性） 豊橋地域

私が学習支援を受けようと思ったきっかけは、高等学校卒業程度認定試験（高認）の合格を目指すためです。私は中学入学後に不登校になり、その後もニートや引きこもりといった生活を長く続けていました。現在はアルバイトができていますが、この先、正社員で働いていくことを考えると高認に合格することは不可欠です。正社員の募集は高校卒業以上の資格が求められるため、応募する条件を満たせないためです。

私の住んでいる地域でも学習支援を行っているのは知っていましたが、高認はなんとなくハードルが高いと感じていました。しかし、過去問題をやってみて、自分で思っていたより正解できたことが自信になり、高認の試験を受けてみることにしました。全科目（8～10科目）を合格する必要がありましたが、最初は3科目を受験することに決めて、重点的に勉強をすることにしました。

しかし、1回目は出願することができませんでした。出願書類を揃えられていないこともありましたが、何より合格する自信が持てなかったからです。そんな時、学習支援の方から「まずは受けてみることです。行動することがこれからを変えて行きます。」という言葉をかけていただきました。

高認の勉強をはじめると、先にハードルが高いと思っていたし、出願の時も合格できないと思っていました。しかし、ハードルが高いと感じていた高認の勉強をはじめることができたように、行動することが大切ということを教えていただきました。そして、2回目の試験は無事出願することができ、受験することもできました。相変わらず自信のない科目はありましたが、結果は3科目合格でした。

高認の試験だけでなく、多くのことで自信がないからやめてしまおうとか、はじめる前から自分にはできないと思い込んでいました。学習支援を受ける中で、そのことに気付かせていただいたことは高認の勉強以上に価値のあることだと思っています。高認の試験でも、3科目を合格することができ、残りの科目の合格を目指して勉強をしていきます。

「新しいステージを目指して」 Iさん（29歳・男性） 知多地域

<感想>

まずは、この学習支援に参加して本当によかったと思います。通っている支援機関からの紹介で教えてもらい、週に2回通うことにしたものの「続けられるのか」「勉強は難しいのではないか」という不安がありました。

最初のヒアリングから担当者と学習支援員が事業説明と現状の聞き取りを丁寧にしてくれたお陰で安心して参加することが出来ました。その時、他にも勉強をスタートしている人の存在を知って、心強く感じたのを覚えています。「自分もやってみよう」という気持ちが少し芽生えました。一人だとサボろうという気持ちになってしまいがちなので。

自分は勉強習慣がなかったので、どう進めていったらいいのか、何をしていけばいいのかわからなかったが、支援員の方がその気持ちを汲み取ってくださり、個別で学習の仕方をレクチャーして貰えたのはありがたかったです。特に進捗表やクイズ形式でのテストのように工夫された内容はモチベーションの維持にとっても役立ちました。自分が基準だと採点が甘くなるので、チェックしてくれる人の存在は大きく、それでいてリラックスした空間。人と話しながらの勉強は記憶が定着していく感がありました。

また歴史漫画など、取っ付きやすい書籍も揃っており、読んでいくうちにすっかりハマって、他の歴史漫画を借りる目的で図書館へ行くようにもなりました。以前はそんな動きはしていませんでした。

実は勉強面以外でも色々あって、気持ちが落ち込んでいる時には通えない日もありますが、支援員の方が勉強以外の事も相談に乗ってくださり、そのお陰で諦めずに通い続けることが出来たのだと思います。

試験そのものは手応えが微妙で合格出来ないのではと思っていたが、結果的に合格することが出来た時には本当に嬉しくて、早速支援員の方々に報告しました！

<改善して欲しい点>

- ・実施日が週2回と固定されているため、直前期には回数を増やすなどの特別な配慮、設定が欲しい

<今後について>

「3か月間勉強を続ける」+「試験に合格できた」という達成感が他の資格試験にチャレンジする姿勢や自信へと繋がった。今後もこの学習支援を活用してITパスポートやMOS資格などの勉強をしながら、就職を目指していきたいです。

「迷うくらいなら」 Jさん (35歳・男性) 知多地域

<感想>

まずは、この学習支援に8月から勉強を始め、11月試験に間に合わせなければならない(3ヶ月で全8教科)状態からのゼロスタートで、本当に出来るのか不安でした。「正直に言うと今年度から受ける事業で、教えられる体制を保證出来るかは約束できない。ただ、やれるだけの事はする」。との説明を事前に受けており、細かく教えてもらえないかもしれないのか…と思いつつも、そもそも勉強習慣がなかったので、それを身に付ける為にも参加を決意しました。

まず、基本となるテキストと過去問がほぼ揃っていたことに驚きました。自分でも調べてはいましたが地元の本屋に置いていない書籍ばかりで、入手するにも内容がわからないし、全て揃えると高額になってしまうので大変助かりました。貸し出しもして頂け、欲しい書籍を伝えると検討して下さる状況はありがたかったです。元々勉強は嫌いではなく、難易度もテキストを見る限り手を出せないものではなさそうに感じられました。なんとなく全体像を把握出来たので、早々に支援員の方と具体的な受験科目を相談して決めることが出来ました。

学習面は「土曜日に必ず来る」と決めたことで、自分なりのペースが作れました。来るたびに与えられる課題があり、「やると言ったからにはやる」「やってこないと一緒に考えてくれる支援員に申し訳ない」と思い、それがモチベーション維持に繋がりました。また支援員だけでなく、同じ目標をともにする勉強仲間がいたことが思ったより大きかったです。

学習支援に対するイメージは「個別家庭教師」のような感じとと思っていましたが、そうではなく広い空間で勉強する時間、そして支援してくれる人たちがいることで、良いリズムを作ることが出来ました。そして実際にはマンツーマンで勉強もしっかり教えて貰え、週1の土曜日はとても有意義な時間となりました。お陰様で11月の試験に全科目合格することが出来ました。ありがとうございました。

<改善して欲しい点>

- ・本番形式さながらの模擬試験が設定されるとよかった
- ・高卒認定試験用のテキストだけでなく、より深い内容の書籍があってもいいのでは
- ・まだ知らない人(必要としている人)のために高卒程度認定試験という制度そのものをもっと広めて欲しい

<今後について>

この3か月で勉強するコツや要領、そして基礎学力を身に付けられました。他の資格試験等を受けたいと思ったときに、この3ヶ月の学習経験が生きてくると思います。もっと知識を深めていきたいと感じているので、何かしらの勉強は続けていきます。

6 事業の成果と課題

(1) 成果

【学習支援・学習相談について】

○困難を抱える若者のステップアップに貢献した。

一人一人の能力等に合わせた高卒認定試験合格に向けた学習支援を実施することができた。

<参考>

- ・高卒認定試験受験者（3か年）実人数：51人
- ・高卒認定試験合格者（3か年）全科目合格者数：23人
一部科目合格者数（延べ）：20人
- ・学習支援参加者における高卒認定試験受験者数の割合（3か年・各地域平均）：46.3%
- ・高卒認定試験受験者における全科目合格率（3か年・各地域平均）：46.6%

地域	実受験者割合 (対参加者数)			全科目合格者割合 (対参加者数)			全科目合格者割合 (対受験者数)		
	R1	H30	H29	R1	H30	H29	R1	H30	H29
名古屋	42.1%	71.4%	21.1%	21.1%	21.4%	10.5%	50.0%	30.0%	50.0%
豊田	25.0%	37.5%	28.6%	10.0%	12.5%	14.3%	40.0%	33.3%	50.0%
豊橋	41.2%	42.9%	33.3%	17.6%	28.6%	16.7%	42.9%	66.7%	50.0%
春日井	66.7%	—	—	0.0%	—	—	0.0%	—	—
知多地域	100.0%	—	—	100.0%	—	—	100.0%	—	—
合計	39.3%	52.8%	25.0%	18.0%	22.2%	12.5%	45.8%	42.1%	50.0%
各地域平均	46.3%			23.0%			46.6%		

※参加者数は、各年度、事業開始から第2回高卒認定試験日までの人数とした。

○参加者の成長、変化を促した。

本事業では、個別指導を中心に、各自のペースに合わせて、わからないところをわかるまで、丁寧に教える学習指導方法をとっている。そのためか、学習への意欲を高め、参加者の能力を引き出すことにうまくいった例が多数見られた。

その結果、学習を継続することや、高卒認定試験を通して、自分に対する自信を取り戻し、次の挑戦に踏み出す気力をも醸成することができた。

【参加者の感想等】

- ・中学校の頃、わからなかったものが何故か簡単にわかった。
- ・とても分かりやすく教えてくれて勉強が楽しいです。
- ・高卒認定試験に自分が合格できると思わなかった。
- ・最初は自分自身が暗かったけれど、少しずつ自信がついてきた。
- ・勉強するコツや要領、そして基礎学力を身に付けられた。
- ・「勉強を続ける」＋「試験に合格できた」という達成感が他の資格試験にチャレンジする姿勢や自信につながった。

○参加者の居場所、相談窓口として機能した。

学習についての相談をはじめ、様々な相談ができる場所、安心して過ごせる場所として、参加者を支えることができた。

【参加者の感想等】

- ・高卒認定試験のことは知っていたが、手続の仕方がわからなかった。受験に向けてのアドバイスがありがたい。
- ・仕事、子育てをしながらの挑戦で勉強の時間も取れなかったが、相談できる場所があったから高卒認定試験の受験に踏み切れた。

【運営者より】

- ・仕事や家庭のことについての相談もあった。これまで相談できる場所や人がなかったとのことで、参加者にとって1つの窓口となっている。

【支援ネットワークの構築について】

○3年目を迎え、紹介による参加者が増えた。

【参加実人数】（令和2年1月31日現在）

H29年度：45人、H30年度：52人、R01年度：77人（春日井、知多地域除く）

【支援スタッフ・運営者から見た成果等】

- ・昨年度に比べ様々な場所からの紹介で訪れる人が増えたように思う。（名古屋）
- ・関係機関のネットワークからの相談や紹介が増している。（豊田）

○多様な連携が見られるようになった

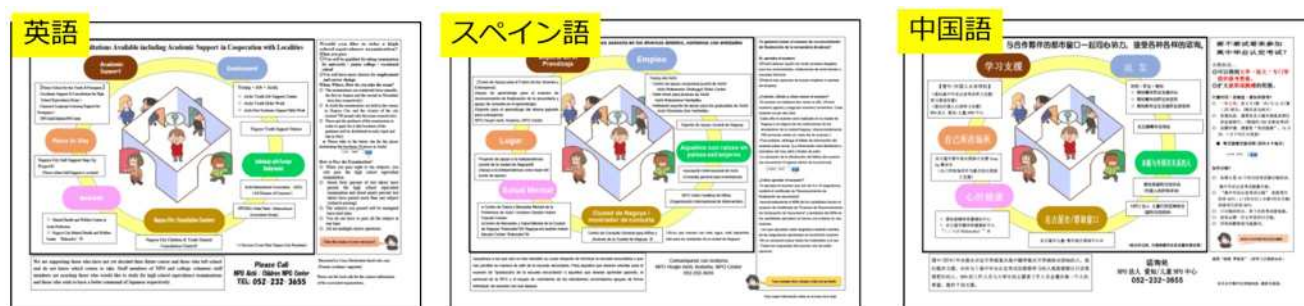
- ・豊田、豊橋地域においては、子ども若者支援地域協議会の一部に地区協議会を位置付けて開催した。
（豊田市子ども部次世代育成課、豊橋市こども未来部こども若者相談総合支援センター）
- ・心の問題を抱える参加者への対応についての研修会に講師として協力。
（愛知県精神保健福祉センター）
- ・地区リーフレットの他言語版への翻訳。（愛知県国際交流協会）
- ・豊橋地域委託団体「NPO法人いまから」が中心となって開催された「学校に行けなかった若者や日本語を勉強している外国人の若者が語る会」の周知協力及び参加。
（愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課多文化共生推進室）

○事業案内の機会提供

県機関各課主催の会議等で、本事業の案内をさせていただいた。

- ・子ども・若者支援地域協議会等連絡会議
（愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課）
- ・ひきこもり支援推進会議（愛知県保健医療局健康医務部医務課こころの健康推進室）

<愛知県国際交流協会の御協力による多言語リーフレット> ポルトガル語もあります。



(2) 課題

○多様化する参加者への対応

・外国籍参加者の対応について

特に、豊田地域、豊橋地域では、語学力不足によって学校の授業についていけない、あるいは高校中退してしまった外国籍の参加者が増加している。

これに対応すべく、令和2年度から、日本語学習支援を、現在の1地域（名古屋）から3地域（名古屋、豊田、豊橋）に拡大する予定である。また、目的も「学習言語としての日本語習得」とし、高校卒業あるいは高卒認定試験合格等を目指すものとして実施する。

・精神的疾患を抱えた参加者への対応について

クリニックからの紹介もあり、うつ病等心の病を抱えた参加者が増えたとの報告が名古屋地域からあった。本事業が対象としている高校中退者、中学校卒業後進路未定者には、学校や社会生活の中で、傷つき、悩み苦しんでいる方も少なくない。そのような方にも支援スタッフが、安心して対応ができるよう対策が必要である。一つの例として、名古屋地域では、協議会委員の協力により支援スタッフ対象の研修会を実施し、好評だった。

このように、他機関と連携して課題解決を図るためにも、各地域で抱える課題を相談できる場となるような地区協議会の在り方を目指していきたいと考える。

○学習支援員のスキルアップ

本事業の学習支援は、基本的には個別指導で行われ、参加者のレベルやペースに合わせて学習を進めることに特徴がある。それを担う学習支援員は、学習支援だけでなく、悩みごとの相談相手となったり、信頼できる大人として接することで、人間関係への自信を回復させたりと、社会参画意欲を高め、能力を引き出し、参加者のステップアップに大きく関わっている。

今後、ますます多様化する参加者に対応し、質の高い学習支援を行うには、個々の学習支援員のスキルアップは欠かせない。

そこで、県生涯学習課としては、学習支援員対象の研修会を開催し、学習支援のスキルアップを図るとともに、学習支援員相互の交流を深め、学習支援員の経験やノウハウ等の共有を図りたい。

○事業の開始時期及び継続性

【運営者から見た課題等】

- ・開始が7月のため、受講生のニーズに答えきれていない。（名古屋）
- ・次年度の事業開始までの空白期間が参加者の居場所（学習意欲と学習の場）を奪ってしまう。（豊田）
- ・次年度の事業開始までに空白期間ができてしまう。参加者にとっては、学習会が一定の居場所となっているため、事業がなくなってしまうことは参加者にとって酷だと感じる。（春日井）

2018（平成30）年度、2019（令和元）年度と、2年間にわたって事業開始が7月となり、8月の試験までに十分な学習期間を確保できなかった。また、前年度より継続して学習を希望する参加者にとっては、4月から6月が空白期間となってしまう、学習の中断につながりかねない状況となっている。

来年度からは、国の補助事業となるため、事業の早期開始につなげられると考えるが、根本的な解決については、今後検討を進める必要がある。

また、事業の継続性が、事業自体の認知度向上や連携の関係強化に影響を与えることを、この3年間で実証するができた。常にある学習場所として認知され、また、安心できる居場所として、県民の信頼を得られるよう予算の確保に努めていきたい。

○中学校卒業後進路未定者、高校中退者への事業案内及び誘導

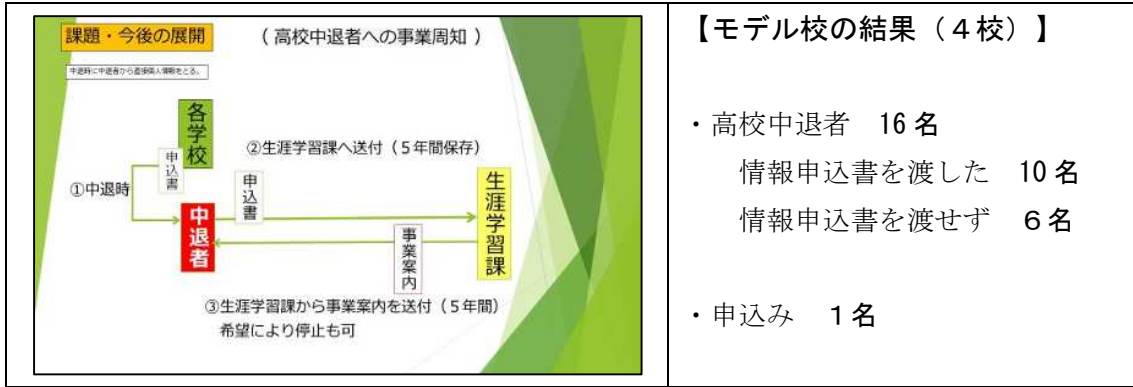
前年度より本事業の対象となる高校中退者、中学卒業後進路未定者に事業の案内が届いていない。そこで、本年度は以下のことを開始し、上記の対象者への事業案内を進めているところである。

＜中学校卒業後進路未定者＞

- ・本課の「家庭教育支援チーム」によるホームフレンド事業（不登校児童生徒の自宅への訪問相談）において、中学校卒業後進路未定者の生徒とその保護者に事業案内を行う。
- ・令和2年2月に、県内各中学校に向けて、本事業の情報を申込みから5年間にわたって提供する申込書を配布し、中学校卒業後進路未定者の生徒とその保護者に、チラシとともに渡すよう協力を依頼した。

＜高校中退者＞

- ・高校中退時に、本事業の情報を申込みから5年間にわたって提供する申込書を手渡すよう依頼した。
- ・2019年度は、西三河北地区の県立4校をモデル校として実施した。
- ・2020年度は、全県にて展開する予定である。



課題については、一つずつ解決を図りながら、一人でも多くの方が、不利な状況を乗り越えて、自分の未来に希望がもてるようこの事業を進めていきたい。

7 3年間の成果と課題について（学識経験者）

若者・外国人未来応援事業の意義 ～2017-9年度における成果と課題～

愛知教育大学 教授 大村 恵

はじめに

子どもの貧困対策として取り組まれる学習支援の多くは、中学生を対象とし、高校進学を目標としている。本事業は、中学校卒業後の学習支援である若者・外国人未来応援事業に3年間取り組んできた貴重な経験であった。本稿では、その取り組みの中で、明らかになった事業の意義と課題について考察したい。

1. 名古屋地域における取り組みの特徴と課題

まず、愛知県内5地域の中で、名古屋地域が他地域と異なる取り組みの特徴について整理しておきたい。

（1）基礎自治体との連携・協力関係

2017年度において、名古屋市との協力関係は十分ではなかったが、2018年度より名古屋地区協議会に、なごや若者サポートステーションに加えて名古屋市子ども青少年局子ども未来企画部青少年家庭課が参加することによって、名古屋市との連携の強化が図られてきた。相談機関と連携したことによって、名古屋地域の子ども・若者支援ネットワークに、若者・外国人未来応援事業が位置付いてきたといえる。

しかし、教育委員会関係との連携・協力関係が未形成であるため、中学校における不登校の子どもたち、中卒後進路未定者、また名古屋市立高校中退者への周知が進んでいない。名古屋市では、なごや子ども応援委員会、子ども・若者総合相談センター、子どもの権利相談室「なごもっか」などの新しい支援機関が立ち上がっている。こうした支援機関とのネットワーク形成も、今後の重要な課題である。

（2）外国にルーツを持つ青少年のための日本語学習支援

3年間の取り組みにおいては、名古屋地域のみ日本語学習を実施することとされてきた。豊田地域、豊橋地域においても、同様の必要性は指摘されていたが、日本語学習を行うものとはされていなかった。しかし、実質的に外国にルーツを持つ青少年が集まる中で、学習支援の中で日本語学習が取り込まれ、特に2019年度になって急速に参加者が拡大したことにより、2020年度からはこの2つの地域においても日本語学習を行う体制の整備がされることになった。

一方、一足早く取り組みが進んだ名古屋地域において、3年間で順調に拡大したかというところ、そうとも言い切れない。2017年度において民間団体との連携により多数の青少年が参加していたが、景気の上昇に伴い仕事が忙しくなると学習支援には参加が難しくなるという傾向が現れ、2018年度には民間団体との関係が継続できず参加者の伸び悩みがあり、2019年度も同じ傾向が続いていたかが、年度後半に入って口コミから参加者数は初年度を越えて拡大した。

このように、外国にルーツを持つ青少年の組織化については、まだ安定した体制が作られているとはいえない。また、学習者に成人が多いこと、安価な日本語学習として求められている傾向が強いことなど、本事業のねらいである就学・進学・就労による社会参加をめざす学習支援のねらいとの乖離が生まれていることも検討が必要である。

(3) 学習支援における PC 学習

3年間にわたって、PC 学習は、年度毎に2回程度実施しているが、学習者のニーズとしては大きいとは言えない。カリキュラムとして、マイクロソフト社のワードとエクセルが使えるようになることをねらいとしているが、そのねらいが学習者のニーズに合致していたか、という捉え返しも必要である。生涯学習推進センターのPC学習設備を使うという学習環境から、平日の午後17時までしか使えないこと、整備されているソフトウェアを使うことというような制限が、学習者のニーズとの齟齬が生まれている恐れがある。

今日的に言えば、基本ソフトウェアの操作というスキルよりは、ネット環境を使った就学、就労のスキル、情報リテラシー、Eメールなどのコミュニケーションツールの活用スキルなどが、より求められる学習内容ではないかと考えられる。特に、新型コロナウイルス感染症の危険が拡がる中で、ネット環境を活用した遠隔学習、エントリーシートの提出、遠隔面接等が必要になっている。

より効果的なPC学習のためには、すでにサポートステーションや、就労支援で取り組まれているICT教育との連携・協力、ネット環境の整備とタブレット等の端末の貸出を含めた活用などが検討される必要があるだろう。

(4) 会場としての愛知県図書館

2017年度は生涯学習推進センターを利用していたが、平日の午後17時までしか使えないことから、学習者の参加が制限されてしまうという課題があった。2018年度から愛知県図書館を学習支援の会場とすることにより、夜間の学習支援、土曜日が使えるようになり、学習者の生活に沿った学習支援が可能になった。

生涯学習推進センターを会場にしていた理由の一つに、県立高等学校定時制課程の連携があったが、実際には学習支援に参加したあと定時制課程に登校するという学習者は現れなかった。定時制課程に在籍している場合には若者・外国人未来応援事業に参加する必要性が感じられないか、あるいは、平日17時までの時間は就労に充てられていることが推察される。

2019年度まで、日本語学習支援は生涯学習推進センターを利用していたが、2020年度からは愛知県図書館を利用する予定である。外国にルーツを持つ青少年にとっても、参加しやすい形態になることが期待できる。

会場が愛知県図書館であることのメリットは、開催する曜日・時間帯だけではなく、学習者にとって生涯学習推進センターより周知された教育機関であること、そのためアクセスに関わる不安感が低減され利便性も上がることなどから、学習者の参加が促進されることが期待できることである。さらに、図書館の機能を活用することにより、学習内容に関わって発展した学習、高校卒業認定試験に合格したあとも図書館を利用した学習の

継続が期待できることなどが考えられる。同時にそれは、より広範な住民の学習ニーズを掘り起こすことになり、利用者層を広げ、特別なニーズへの対応能力を高め、社会教育施設・生涯学習拠点としての公共図書館の機能強化が期待でき、地域全体の生涯学習環境の向上が期待できる。これらのことは、学習支援参加者への支援の継続に関わって重要であり、今後、学習者への追跡調査によって学習支援の効果の測定が望まれる。

2. 対象とする学習者群への支援

(1) 本事業に参加する学習者群

本事業の開始時には、10代後半の青少年が中心的なターゲットになることが想定されていた。しかし、問い合わせや、実際の参加者層からは、違った学習者の姿が見えてきた。2017年度の名古屋地域の取り組みのまとめとして、「特徴別学習者群」整理したが、3年間の取り組みを踏まえて次のような学習者群に再整理できるだろう。

A；日本人の学習者群

- 1) 10代後半の日本人の学習者；高校不進学、高校休学・不登校、中退および不登校経験者。
- 2) 20代から50代の日本人の成人学習者；就労しながら、高校卒業認定試験を目指す。貧困、疾病、少年院入院などの理由での高校不進学者および中退者。
- 3) 20代から50代の日本人の成人学習者；ひきこもりまたは精神疾患等の要因から社会との接点が希薄。社会参加を目指している。
- 4) 60代以上のシニア成人学習者；学び直しのニーズを持つ学習者。夜間中学校からの接続もある。

B；外国にルーツを持つ学習者群

- 1) 中学校・高校に在学中の10代の外国にルーツを持つ学習者；日本語の読み書きに課題があり、補習と高校卒業および上級学校進学を目指している。
- 2) 10代後半の外国にルーツを持つ学習者；就労しながら、高校卒業および上級学校進学を目標としている。
- 3) 20代から40代の外国にルーツを持つ学習者；日本語の読み書きに課題がある。
現在の仕事または就労のための日本語学習。子どもに同伴して参加する場合もある。

本事業が「高校卒業認定試験にむけた学習支援」であるという性格から、現在の「子どもの貧困」に関わる青少年の学習者だけでなく、過去において「子どもの貧困」の中で教育から排除されてきた成人学習者、外国にルーツを持ちかつ日本社会への参加に困難を持っている青少年および成人学習者を対象とすることは、今後も必要であると考えられる。

ただし、(B-3)の20代から40代の外国にルーツを持つ学習者の場合、高校卒業認定試験を目指さないのであれば、国際交流関係の日本語学習支援と連携し、より適切な支援の場を用意することが考えられる必要がある。

(2) 10代後半の日本人の学習者(A-1)への支援

学校とのつながりが切れてしまい、不登校傾向をもつ学習者は、本事業とつながることが難しい学習者である。学校関係者や学習・教育への不信感や、友人・家族との人間関係の傷つきを抱えている場合、学習への参加意欲を維持することは難しい。本事業への参加のためには、不登校支援の機関・民間団体等との連携が求められる。

一方、学校とのつながりが切れる前に本事業につながることができれば、オルタナティブな学習の場として本事業を活かすことが可能である。中学校、高校在籍中に、高校卒業認定試験の存在を周知し、進路指導の中で、学習者が主体的に選択可能な進路として提示されることが必要である。中学校・高校における生徒指導、不登校問題への対応および進路指導との連携が求められる。

(3) 20代から50代の日本人の成人学習者(A-2)(A-3)への支援

本事業は、1990年代以降蓄積されてきた社会的に排除されてきた学習者とその家族により強く求められている。成人教育における機能的識字学習としての性格をより色濃く持っているといつてよい。

そのために、学習支援の方法と内容について、貧困、疾患、生い立ちなどの学習者の生活背景への理解と尊重を基盤として、学習者に寄りそう支援が必要とされる。対話を求める学習者もいれば、踏み込んで欲しくないと思う学習者もいる。学習者主体、学習者中心の学習支援のあり方を一人ひとりに即して考えることが求められている。

なお、(A-2)のひきこもり傾向にある学習者は、本人の参加意欲が高まっているかどうか、また、家族関係に困難さがあるかどうか、支援方法に関わって重要である。ひきこもり支援の機関・民間団体等との連携、家族支援の検討が必要になる。

(4) 60代以上のシニア成人学習者(A-4)への支援

必ずしも就労や社会参加を目指しているわけではないが、学び直しとして高校卒業認定および上級学級への進学を目指す学習者は、比較的安定して学習に取り組むことができる。この学習経験を経て、学習の継続と、支援者として学習支援事業に参加されることを期待したい。

(5) 外国にルーツを持つ青少年(B-1)(B-2)への支援

外国にルーツを持つ住民が増加する中で、特に20代の青年層の増加が拡大している。今後、外国にルーツを持つ子育て家庭が増大することが予想される。

しかし、そうした外国にルーツを持つ子育て家庭の場合、家庭内では母語で会話し、日本語の読み書きに触れることが少ない生活をおくることが多い。そのため学習言語としての日本語の習得に困難を抱え、学校での学習についていけない状況が多いことが知られている。(B-1)の中学校・高校に在学しながら本事業を求める理由がここにある。

また、すでに就労している(B-2)の場合も、日常的な会話はできているが、日本語の読み書きに困難があったり、大学・専門学校等への進学のための学習を求めているこ

とから、学習支援が求められている。

したがって、本事業においては、学習言語としての日本語の修得が重要であり、学校教育において取り組まれている学習言語としての日本語学習の経験から学ぶ必要がある。

3. 中学校卒業後の学習支援を拡げるために

中学校卒業後の学習支援は、中学生を対象とする学習支援とは異なる性格を持っている。今後の本事業の展開のために必要な配慮と検討事項を挙げておきたい。

(1) 高校卒業認定試験の意義と活用

本事業が目指している高校卒業認定の意義について、社会的な認知を拡げる必要がある。特に学校関係者がこの制度を活用する意義を認知することによって、子どもの貧困への対応を拡げ、オルタナティブな学習教育を提示することができ、子どもたちのストレス軽減を図ることが期待できる。

高校不就学者、高校中途退学者は、なんらかの理由で高校進学を諦めたり、退学を余儀なくされたりして、学校教育から離れることになるが、同時にそれは社会的な保護からも排除されてしまうことになり、貧困や疾患、介護などの困難を抱えていても必要な支援が届かなくなってしまう。学校に在籍することで支援につながることを望ましいが、それが適わない場合には、学校教育に代わる学習の場とつながること、上級学校に進学すること、自治体の支援ネットワークに認知されることなどのオルタナティブな支援が用意されていることが求められる。

高校卒業認定試験は、オルタナティブな支援の一つとして重要である。学習支援を利用した自学自習による高校卒業認定は、「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」に示される多様な学習の保障を社会的に評価・認定する制度であり、スクーリングを必要しないことから、この制度を利用した学習は時間的、物理的、経済的負担が少ない極めて多様な展開が可能である。このことは、不登校・ひきこもりを経験した学習者に対しても、社会に復帰するために、負担の少ない学習機会を用意できることになる。また、社会的な排除を経験したものにとって、高校卒業認定が社会的に認められることは、自己肯定感の獲得にとっても重要である。

外国にルーツを持つ青少年にとっても同様のことがいえる。負担が少ないことは重要であり、また、高校卒業認定は、日本社会から認められることであり、日本社会・地域社会への参加・包摂が促進されることが期待される。

なお、中学校・高校在籍者に本制度を周知することは、子どもが高校不就学・中退を選んだとしても、同学年の子どもたちに遅れることなく上級学校への進学が可能になるオルタナティブな進路があることを示すことである。選択可能な進路が数多くあることは、子どもたちの進路決定のストレスを軽減し、社会的に排除されるリスクも軽減されることが期待される。

(2) 若者・外国人未来応援事業の実施体制と支援主体形成

本事業は、若者未来応援協議会とその研究部会、地区協議会によって、全県および各地

地域の行政機関・NPO等の横断的かつ包括的なネットワークを作ることを目指している。そこに期待されているのは、セーフティネットにつながっていない中学校卒業後の青少年を支援のネットワークにつなげ組織化すること、対象者の多様で複合的な困難に対して多面的な支援をつなげること、それらを通して、全県のおよび地域的な支援主体としてのネットワークの形成をはかることである。特に、県と市町村とNPO等民間団体、福祉・労働・医療等一般行政と教育行政という多様な主体の参加する横断的ネットワーク形成は、今までにない先駆的な取り組みといえるだろう。

しかし、この若者未来応援協議会は、愛知県の条例による設置であり、各地域の自律的な支援主体形成としての取り組みに転換していくためには次の段階の政策的ステップが求められる。今後は自律的な支援主体としてのネットワークの形成への模索に踏み出す必要がある。

2019年度は、子ども・若者育成支援推進法第19条に基づく「子ども・若者支援地域協議会」を活用して、若者・外国人未来応援事業を地域に展開することに取り組んでいる。子ども・若者支援地域協議会は、社会生活を円滑に営む上での困難を有する子供・若者に対し、様々な機関がネットワークを形成し、それぞれの専門性を生かした発達段階に応じた支援を行う仕組みとして設置が求められている。不登校・ひきこもりの青少年への支援も、このネットワークの中心的な目的の一つとなっている。2019年度においては、豊田地域、豊橋地域において、地区協議会を「豊田市若者支援地域協議会」「豊橋市子ども・若者支援地域協議会」の一部に位置付けて開催した。その成果としては、協議会に参加する子ども・若者支援関係機関・団体における本事業の周知が促進されたことが報告されているが、一方で、子ども・若者地域協議会における協議テーマが数多く、本事業に関わる協議時間が限定されてしまうという課題も指摘されている。子ども・若者支援地域協議会そのものを活性化し機能を高めていくことと合わせて、本事業を地域の子ども・若者支援計画に位置付けていくことを期待したい。

(3) 愛知県のリーダーシップと切れ目のない学習支援

3年間の取り組みで、毎年課題として挙げられていることは、事業が単年度であり、かつ国の予算執行と連動しているため、事業の開始が7月以降となり、また3月の初旬に事業を終了しなければならないという予算執行に関わる問題である。このために、8月の高校卒業認定試験の前に1カ月しか学習支援を行うことができず、また試験の申し込み時期に、学習支援を行うことを宣伝することもできない。また、3月から6月までの4ヶ月間が学習支援の空白期間となってしまう。いうまでもなく、学習者は学習の継続を求めており、学習支援の空白期間は学習者のモチベーションを冷やしてしまう。事業の継続・拡大にとって、空白期間が生まれることによって効果が減衰してしまう。事業の効果を上げるためには、空白期間のない、切れ目のない学習支援を実施することが必要である。

現在、豊田地域、豊橋地域では、事業者の自前の予算と、支援者のボランティアによって空白期間が生じないような運営努力がなされている。名古屋地域でも3月の空白期間を短縮している。しかし、事業の趣旨からすれば、学習支援の空白期間を作らないことは、愛知県の責任において行うべき努力であろう。学習者に向き合ってニーズに応えようと

する支援者の善意に頼ることは、事業の継続・拡大を危うくするものである。

全体としての事業推進のために、実施地域の自立性、ネットワーク形成を尊重しつつ、市町村・NPO等民間団体、支援者が事業に取り組むことのできる制度・財政などの基盤整備において、愛知県のリーダーシップを求めたい。

(4) 若者・外国人未来応援事業支援者の養成とネットワーク形成

本事業は、子どもの貧困対策の教育支援の一環として実施されている。しかし、本事業の学習者の半数以上は20代以上の成人が対象になっている。1990年代からの貧困の蓄積があるために、「子ども・若者支援」で想定されている39歳までという枠組みを超えて、40代以上の成人も学習者として参加している。したがって、事業全体でいえば、子どもよりも成人の比率が高いのである。

20代から50代の日本人の成人学習者(A-2)(A-3)への支援で述べたように、本事業の支援者は、成人教育における支援者としての役割と資質が求められている。子どもに対して教える学習支援とは異なる支援方法が求められることは、例えば支援者として参加している大学生にとっては初めての経験であることが多い。支援者養成の固有の課題として捉える必要がある。学習者の生活背景への理解、精神疾患などを持つ学習者へ対応についてのスキル、教育支援以外の社会福祉的な経済支援・生活支援・就労支援などにつながる他機関連携への理解などが、支援者養成の課題として想定できる。

こうした課題に対応した研修の場は、本事業以外にはあまり見ることができない。支援者の力量向上を目指す研修の機会を全県的に用意すること、また、支援者が支援実践を交流し、支援者としての力量を向上し、各地域での取り組みを支え、拡げていくことができる支援者ネットワークの形成を目指す必要がある。

(5) 信頼できる他者、信頼できる社会制度を配置する社会教育的支援

本事業は、高校卒業認定試験のための学習支援であるが、その支援の内容は、高校レベルの教育課程を教えることを核としながらも、それに留まらない支援が求められている。何より、本事業の困難さは、学習者の組織化にある。学習者が自ら参加したくなること、継続したいと思うこと、そのことなしには事業として成立しない。

それでは、学習者の組織化を支えるものは何か。

仮説的に提示するとすれば、一つは、支援者が学習者にとって信頼できる存在であること、一緒にいたいと思える存在であること、助けを求めれば応えてくれる存在であること、というような支援者の存在であろう。そのために、前に触れた養成とネットワークが重要になる。

もう一つは、支援者を配置し維持する本事業、制度、それに関わっている団体・機関、市町村、愛知県という、社会的な諸機関諸団体が、学習者にとって信頼できる存在として認識できることではないだろうか。個人の世界や、家族世界から一歩踏み出て、社会というものが学習者の生活や人生を支えてくれる構造を持っていることに気づくこと、それが学習者自身を支えることになる。

本事業は、そうした信頼できる他者や、信頼できる社会制度と出会える機会であることが求められている。そのために、学習者が支援者とふれあい、社会制度を認識し、自分の

人生を歩んでいける生き方を描くための社会教育支援こそが、支援の基盤であり、骨格であり、内容を形成しているのではないだろうか。

本事業の今後の展開の中で、こうした支援内容についての実践研究を望みたい。

おわりに

愛知県の「子どもが輝く未来へのロードマップ」（2020年2月改訂）では、若者・外国人未来応援事業の実施地域を、2022年度には9地域に拡大することを目標としている。そのためには、財政規模の拡大と、地域における支援体制の形成、県と市町村・NPO等民間団体とのいねいな連携が不可欠である。そのステップとして、2020年度は、7地域への拡大が予定されている。2022年度に向けて、3年間の成果と課題を踏まえた、さらなる取り組みに期待したい。

若者・外国人未来塾の3年間の成果について

—困難を抱える若者の状況および「未来塾」参加者の傾向に注目して

川北稔（愛知教育大学）

1. はじめに

若者・外国人未来塾の3年間の成果を振り返るにあたり、愛知県内の高校中退者や進路未決定者の状況を確認する。また参加者の年齢層に注目し、さまざまなライフステージの子ども・若者が、学習支援をきっかけとして社会とつながる可能性について考える。

2. 愛知県内で困難を抱える子ども若者の状況

愛知県においては、本報告書の冒頭にも示されているように、中学校の不登校生徒数、中学校卒業後の進路未決定者数、高等学校等中退者数が多い。また日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数は全国最多となっている。

こうした数字は愛知県の人口の多さを反映している面もあり、人口比の観点からも評価する必要がある。まず高等学校の中途退学率は、全国が1.4%であるのに対し愛知県では1.1%と、必ずしも高くない（平成30年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」令和元年）。

次に学校基本調査をもとに進路未決定者（中学校卒業後）についてみると、2019年度の中学校卒業における進路未決定者の割合は全国で0.6%であるのに対し、愛知県は0.9%であり、47都道府県のなかで割合が高い順で4位となっている。愛知県では高校等への進学率が98.4%と低く（全国では98.8%。愛知県の順位は都道府県別に低い順で7位）、就職率が0.4%と高いこと（全国では0.2%。愛知県の順位は都道府県別に高い順で2位）が関係していると考えられる。

時代をさかのぼると、愛知県の進学率の低さは1970年代中盤からみられた。ただし就職者の割合が高いことから、進路未決定となる者の割合は全国に比べて高くなかった。しかし徐々に就職者が減り、1999年からは進路未決定者の割合が全国を上回り現在に至っている。このように愛知県では進路未決定のまま中学を卒業し、少なくとも一時的に所属先を失うと思われる子どもが少なくない。高校中退者以外にも、高卒認定試験のような機会を利用して学業を再開したり、進路を模索したりする必要がある子ども・若者が多い県といえることができる。

また日本語指導が必要な外国籍の児童生徒は愛知県で9,100人、全国では40,485人である（「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」平成30年度）。学校基本調査をもとに児童生徒総数に対する割合をみると、愛知県では6.5%、全国では0.1%と愛知県の割合の高さは明らかである。また前掲の調査から母国語別の在籍状況をみると、愛知県はポルトガル語が4,106人、フィリピン語が2,074人、中国語が1,034人、スペイン語が919人などである。

学歴という側面からみると、外国籍の生徒の進学率が他の都道府県に比して低いという指摘もある（矢部東志「都道府県別にみた外国籍生徒の高校進学率と母語の関係性——『日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査』の結果を用いて」『教育・社会・文

化：研究紀要』19号、2019年)。中学校と高校のそれぞれに在籍する外国籍の生徒数を比較したとき、高校の生徒の割合が全国的な水準に比して高いのが神奈川県や東京都など、低いのが愛知県である。進学率が高い県に在籍する生徒に中国語を母語にする者が多いことが背景にあると推測されている(前掲論文)。この点から、愛知県では母語の特性にも配慮した支援が求められるとともに、進学につながらなかった児童生徒への継続的支援が求められるといえよう。

3. 「未来塾」参加者の傾向について

若者・外国人未来塾の参加者について、年齢分布を概観する(図1)。全体的に最も参加が多いのは10代後半や20代前半である。学習支援の大きな目的が高卒認定試験の受験であり、高校中退などを経験しながらも学業の再開や大学進学を望む人が多く参加しているといえる。

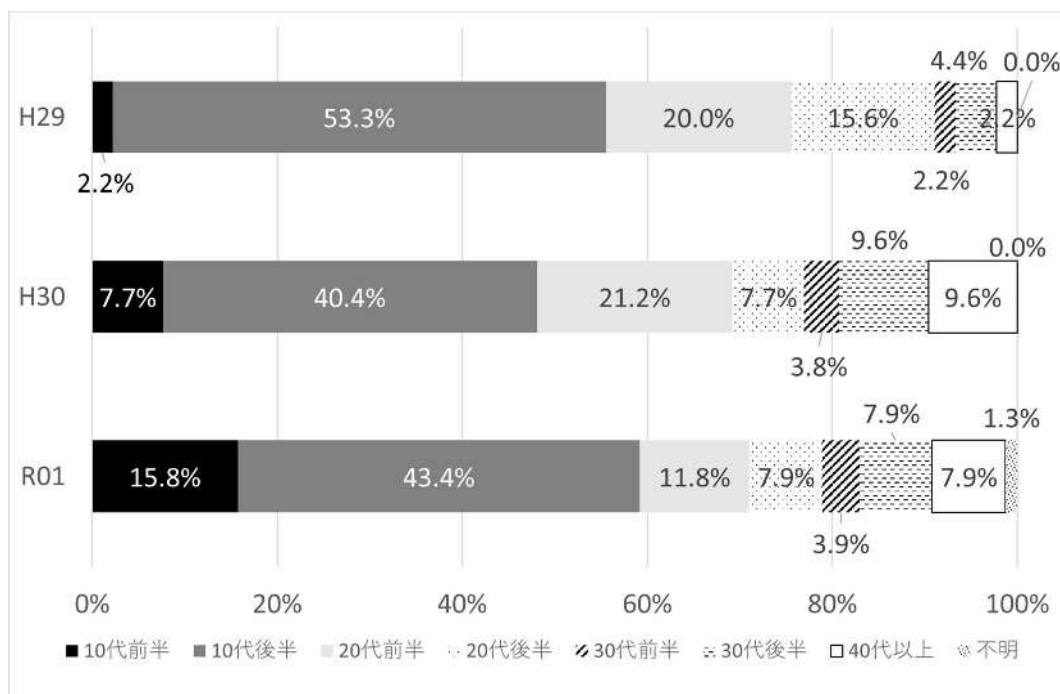


図1 若者・外国人未来塾の名古屋・豊田・豊橋地域における参加者の年齢分布

また平成29(2017)年度以来、年を追うごとに10代前半の参加者が増えている。ここには日本語の指導が必要な外国籍児童生徒の参加者の増加が反映されていると考えられる。各地域の未来塾からは、きょうだいや友人と誘い合いながら参加する児童生徒が増えることで、学習支援の会場に従来にない賑わいが加わったとの声が報告されている。

30代や40代での参加も少なくない。さまざまなライフステージの人が次の進路を模索する場として学習支援が活用されている。学業の再開や「学び直し」の場を設け、参加を呼び掛けることが、経歴のブランクがある人や対人関係に自信をなくしがちな人にとっても有効であり必要である。

ライフステージごとに参加動機は異なると思われるので、令和元年度事業で名古屋・豊田・

豊橋の3地区に参加した76人に限って簡単に確認しておく。高認試験を受験した20人は、10代後半が8人、20代前半が3人、20代後半が3人、30代が4人、40代以上が2人である。受験者に限っても世代の多様性がみられる。

同じく今年度事業で、何らかの学校に「在学中」以外の立場で参加した人は、40人が確認できた。うち中卒の学歴の人が11人、高校中退の人が17人などである。40人のうち何らかの学校に進学する動機から参加したとみられる人が15人だった（うち10人が10代あるいは20代であり、5人が30代以上である）。就労条件の改善など就労関係の動機から参加したとみられる人が7人いた（ほとんどが10代あるいは20代である）。特に進学動機を持つ人は多様な世代に渡っていることがここからも確認できる。

従来の子ども・若者支援は就労支援やメンタルヘルスの支援（こころの健康相談など）が主な内容といえるが、実際に参加する若者の姿は、多角的な機会の保障に対するニーズの高さを物語っている。

4. おわりに

個人的な回想になるが、筆者が15年以上前に「ひきこもり」経験者の若者に対するインタビュー調査を開始したとき、最初の対象者となった若者（20代中盤の男性。Aさんと呼ぶ）が、ちょうど大学入学資格検定の受験（当時）を志ざしていた。実際に受験して合格したAさんだが、その後大学に進学することはなかった。高校に1日しか行かないまま退学し、20歳を過ぎるまでひきこもり状態で生活したAさんは、おそらく高校に行かなかったことが心残りだったのだろう。この例から高卒認定試験の受験は、中断した学業に対する「思い残し」感を解消したり、自信を取り戻したりするきっかけになることが推察される。

従来の就労支援やメンタルヘルス支援に加えて、さまざまな角度から「次の一歩」を支えるための門戸を開いておく意味は大きい。

学習支援の事業を今後発展させるうえでの課題を挙げるとすれば、進路未決定のままの卒業や高校中退の時点で、対象者に効果的に情報を伝達することである。一般に、学校関係者と、卒業や中退後の支援に携わる関係者との連携体制は弱い。在学中から多職種の支援者や相談機関と接点を持つ体制を築くことが、「切れ目のない支援」のために不可欠であろう。またメンタルヘルスや対人関係に困難を抱える対象者を支えるためのスタッフの研修体制、参加を中断してしまった人に対するフォローアップ体制なども課題として挙げられるだろう。

令和元年度（2019年度）

愛知県「若者・外国人未来応援事業」成果報告書

発行 令和2年3月 愛知県教育委員会生涯学習課
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号